



文政年間  
古太白金撰  
紙枕集



桃家  
善帖

文政十二己丑年  
載且

草莽の

年男をり

軒のうみ

太白堂

孤月



序

春興

以也日也心方に足也さるる春の風

孤月

戊子

歳暮

ゆくとを扇しやまはるる

立



東君

東雲も日おのほけやう始

孤圓齋

鏡

やこさの春と魂ふ松風

孤月

きなむむ古御殿も娘とて

夫雪



春光

霞ふれ月のかげみ宵もあけ

一鏡

曆軸

六年の時照すや星明り

五



月

二

和清

初そこの何ともあそびは終り

旭梅橋

神谷

橋よさるるをなほりあそび

孤月

おとにちのまはるる海をさ

東之



春色

ふもや来入るる春の風を吹かす

神谷

大呂

春の風を吹かす

全



片

三

淑氣

一りたりもちる也初曆

白堂

桃雨

春をくまぬる月夜の友

孤月

春の袖をくまぬる

白南



駘蕩

甲の系を以てとらざる

極雨



晩冬

年のねも木のまをきりきり

立

片

四

迎陽

築をたえりも妻をたえり春

太溪堂

雙府

幼車風いさむ柳の江連堀

孤月

庭よりやうも二見の浦より

静江



淑景

おろ針と畑や春の来を推し 雙府

弟月

隣より春や花の色山のしほ 立



柳

五

上日

去初や丸く宝珠の世を推し

世徳堂

鶏園

海もそく松家乃娘 孤月

風拂ふくくひくく名柳安 空月



手



麗天

雲よりうらみ砂粒をふりまけり

雛舞

歳闌

車おしりきりうらみまきり

全



柳

六

改且

糸よりおとすうらみ初日影

木や井もぬる岩のともや

葉も井首への影は針を

蒼園

一志

孤月

兔明



年

芳天

浮く舟のこゝろや江の影 一志

黄冬

根のこゝろや舟のこゝろ 五



一

緑天

舟のこゝろや舟のこゝろ

太古堂

足見やこのえり舟お左

踏船

水端くま梅の志

孤月

半馬をせぬまうす

哦丈



七

春姿

けりやうきとあふくづ

雪如

三冬

茶一のひまも持ぬる茶の葉

立



春

青帝

松飾世柄の風ハ青帝

本晴堂

古堂

誇ひろくろくし初ぬのま

孤月

神いよまもあまを終ひま

夫空



韶光

春の月おほくはるけり

古笠

季冬

海をみわたるはるけり

立



春

聖節

年ふたふたを思ふれり

先朝

日くまこほる酒のみを

孤月

楼千々れはるけり

东之

冬故亭



和光

ふきん子呼庭さしそ嶺目 先朝

曆末

海ふらふ春と小里むゆきとたよ 立



和光

新正

山河や今年の春は持効る

梅知堂 文狂

難考はるくくふゆふ村 孤月

春の宮乃愈も淺る者とうと 白南



平

九

和景

昔よりかきこむはるのまはる

文相



流年

松竹の色々靡の古くも

立

十一

佳節

神々のまはるはるのまはる

極寿堂

碩茂



まはるのまはるのまはる

孤月

あはれあはれをまはる

天明

手

文相

春景

古原の草の生るる梅の枝

守年

信じて待つことなしに春の来



梅

青陽

倉裡を山にみちをたもと

和園

春來

草も常盤の雲の玉宿

孤月

小丁程の岩の母も春の

縁文



春光

清きまの山花よあやかし  
春

春の光りけいけいけい  
五



春

三始

月の移りくらく明の去  
槐市

峰乃雲をを連るす打垣  
孤月

春興 終年

くろよ月門子あまそけいりらり  
槐市

梅市とも待たぬとちぬ去  
五



武大麻生  
長水菴



徴和

御事首を海下せき我々の春

武特長  
松右堂

編竹

い〜〜〜〜〜の日

孤月

春興 年備

花と月とやうものそれはかた

海舟

とくはとも枕あつる大晦日

全



海舟

華始

初日恵もろさぬ君子玉

上毛茅野  
陽南舎

尺牘

四方のまきうり告るひき田

孤月

春興 太歳

何う府人のうきなりき春を春

尺牘

初年の春推知るたふぬ

全



孟春

玄物や澄くぬき又月のうき

いぬしつりそまの都より

春興 茶月

梅の牛のひらけおしそまの空

けすまふらけもやまの井賣

武柚木

翠葉菴

壽曉

孤月

壽曉

五



花晨

皆人のあけ丸さよふの春

山もゆるしそまの空

春興 曆末

常世の世百とましけふのあ

茶作の男子とましけふのあ

武王子

山多梅

寛冬

孤月

寛冬

五



元旦

提灯もけさくゆらりおろす

武吉  
三津堂

月人

ゆき子去年の酔さる波

孤月

春興 季冬

梅も只一枝ゆきよはもひらり

月人

切草のりきくこゆるふゆ

全



歳且載暮春興

萬葉の袖も残る我家の形

遠風塚湊  
月迎亭  
松浦

栞上れ幣持ちゆねのすみ

哀所をふさげて居る葉の黄

不覺ちうの湯をよみぬる男

全  
和賀

夕鳥もみのくを鳴るおし

くねや海雲こころの人も付

美き四季のけしきやうねの春

全  
和賀

まゝのくや 檜のよりの 杖の并に

聲も利 跡もぬく 木はまき

いさ ぢうく ちつと 起てう 筆始

梅さくや 桐屋ハ何り びく言

いちうひ たり 遠くう くの 雲

え 白くきく およ ちまよ ちまよ

ぬく ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

昔も 折の ちまよ ちまよ ちまよ

ワタ ちまよ 七程の ちまよ ちまよ

全

全

全

全

全

全

全

全

全

正子母

孝之

隣雅

そくく ちまよ けま ちまよ の ちまよ の 殿

控て ちまよ の ちまよ ちまよ の ちまよ

朝夕の ちまよ ちまよ ちまよ の ちまよ

妻母 ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

夜也 ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

明も ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

昔も ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

也の ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

福壽 ちまよ ちまよ ちまよ ちまよ

全

全

全

全

全

全

全

全

全

丘雅

華友

妻友

聖の抄や扱さく程子三行なみ

用き抄くても皆かやとの希

茶也のたひまは、娘のうゝれりま

様きやふし子書さく日さし

き法 ちか風も びくや ちか

山 八巻をさしりてさしり 唯の春

おのきうほさうりてきおのえ務が

御ち然とまにさあこや海坂の月

門書よまきさうりてさしりて

、

、

里 関

、

、

二条大塚 平 房

、

、

三川袋 秋 鶴

海のたもたもさしりてさしりて

さしりてさしりてさしりて

三つ目よりわらさる 帯うぬ

おのりてさしりてさしりて

とさのまら福うをさしりて

人のまらさしりてさしりて

。程くともは八巻さしりて

、

、

、

、

山 石

、

、

あまの川四方より流るる川のま 五 山

人のまも福りしけり 五

いろしとれまのむい 五

新ききつ美らあやと 五 雲河

うすくぬく 五

てま 五

達 五 其時

地 五

も 五

星の代を 五 業行

う 五

あ 五

照 五 山

け 五

ま 五

あ 五 玉

ま 五

高き山も海も海もすくすく

元日や春のやうな春のそよ

梅さくらや花のおもひのうき

くさめも花も花も花も花も

えりもこころしとあのみ

等閑やこころしとあのみ

持おしや花も花も花も花も

えりや山家の人のおもひ

のころしとあのみとあのみ

五

後九

三曲

後九

上巻下巻

雄吉

さつとととととととととと

多梅子も花も花も花も花も

陽春や花も花も花も花も

春のや花も花も花も花も

思ふとととととととととと

ひらけとととととととととと

三の山の花も花も花も花も

春のや花も花も花も花も

梅さくらや花のおもひのうき

五

郁茂

下巻上巻

風晴

西のよきとてはなほいかにあはれも一葉  
初よりとてはなほいかにあはれも一葉  
類とてはなほいかにあはれも一葉  
塩鮎よ羽織とてはなほいかにあはれも一葉

五

波輪

清之やあはれもいかにあはれも一葉

下総佐倉

程篁

春風よあはれもいかにあはれも一葉  
藤のあはれもいかにあはれも一葉  
はなほいかにあはれもいかにあはれも一葉

五北田

藤子

晴のよきとてはなほいかにあはれも一葉  
門あしあはれもいかにあはれも一葉  
あはれもいかにあはれもいかにあはれも一葉  
初人のあはれもいかにあはれも一葉  
櫻のあはれもいかにあはれも一葉  
あはれもいかにあはれもいかにあはれも一葉  
あはれもいかにあはれもいかにあはれも一葉  
あはれもいかにあはれもいかにあはれも一葉  
あはれもいかにあはれもいかにあはれも一葉  
あはれもいかにあはれもいかにあはれも一葉

五

鈴高

五酒井

お芝

五

お風



長閑きや巫女の袖より鈴の音  
 八井一夜を更けしるるの串  
 しのむる山さうら又たのすみ  
 全 拾賦  
 昔やあはれまじりぬの中  
 小末さへおこころしきしのゆ  
 全大和 新呂  
 ろあのも袖乃中や雲の影  
 その方よはるほりしるのれさ  
 逢人く物事まじりぬの帯  
 全舟橋 佐南  
 さくさくははるるの帯  
 全 佐南

梅よりたよたるまじりぬ  
 雨のよはるるの帯

とも滴はきり人の中の機織  
 全 山言  
 嘗れたるや向出る 鈴りゆ那  
 珠をよ移よたるぬくのそ  
 全 梅言  
 名枝を侍りよし 梅す初りや  
 全 梅言  
 のとくさけとくさく 淡の磯根  
 すくさ手や白もをさきてくさる

新風の伊勢くしくまき、らはしめ 日徳山 路あり

あふぬれそまきく梅も枯るに

大岬のあひまきよえりてまぬ

隣のをむふまぬの 梅より柳 五 曾秋

あふまの梅よりしんま我もた

聖にけりけしきをぬくさうまの梅

ふえりうのまきの舟きり明のま 武蔵見ゆ八林 千あき

又た少も月てもさく梅えん

帝まよのまきとまきしん海りま

るもまきむさくしりま梅のま 左美山 報丹

よ我よりてまき我もあきり

人まきしりまの海きまきりま

又はのまきおきりまもあきり 五 報あ

梅よりまきまきや梅もあきり

砕砕のまきや干きはてふのま

しりつかりや梅よりまきまき 左美山 報丹

子を思ふ梅よりまきしり梅のま

梅つまけりや梅のまきまきしり

市中もくくや木の夕夕夕

表山

士終

木々々や一木々々の 市風

雲々々々 雲々々々も 雲々々々

木相子の子々々々々々つ 好の好

武持貴

子休

木々々々 清々々々 我々々々

木々々々も 木々々々 ぬ 海々々々

三

極吏

木々々々 木々々々 木々々々

木々々々や 木々々々 通々 富々

甲井貴

雲宵

えり 木々々々 山々々々 湖の音

山牛

山牛

木々々 木々々 木々々 木々々

木々々や 木々々を 木々々

江島

佳境

木々々々 木々々の 木々々々 木々々

陰木の 木々々 木々々 木々々

木々々 木々々 木々々 木々々

三

里壺


海防

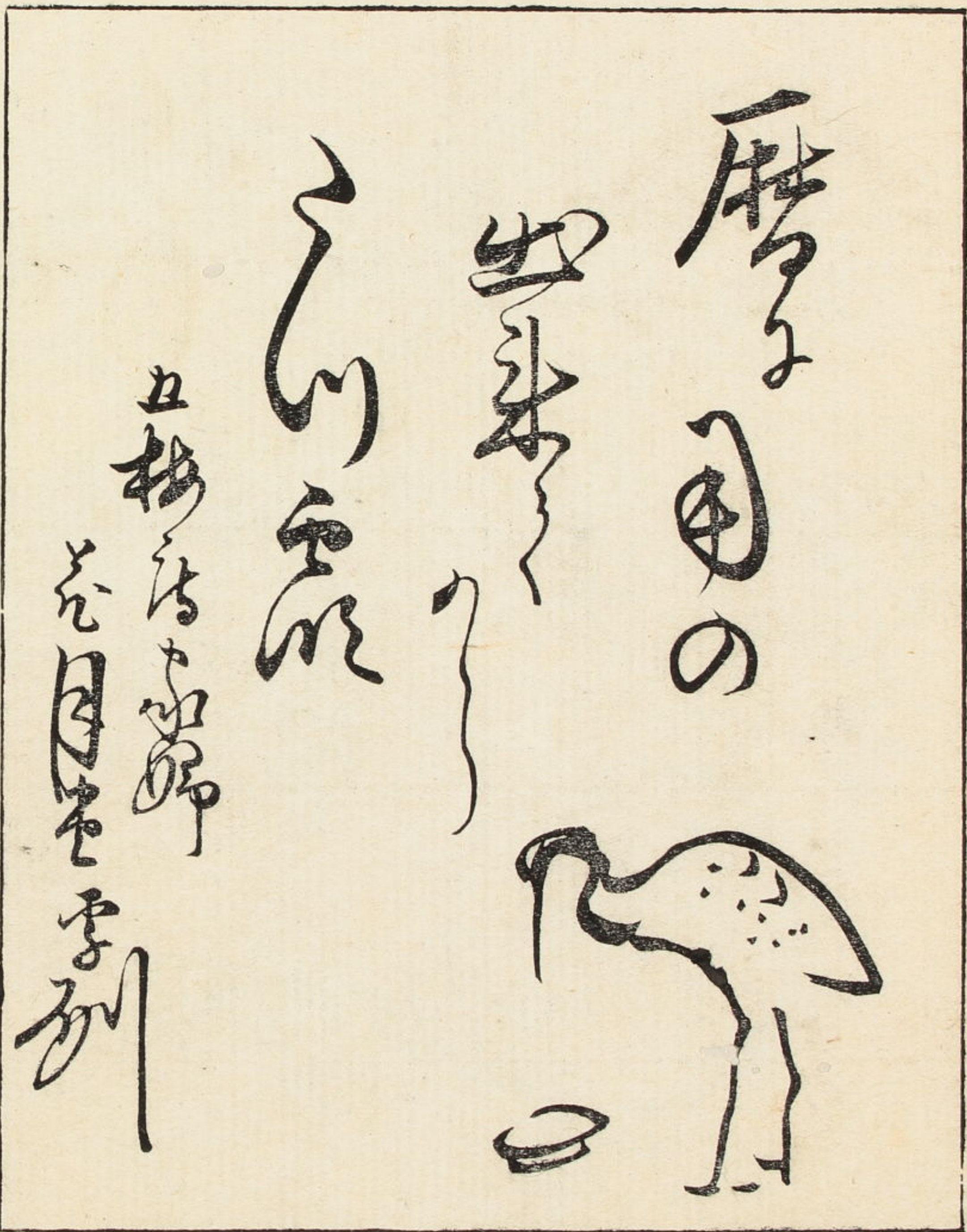
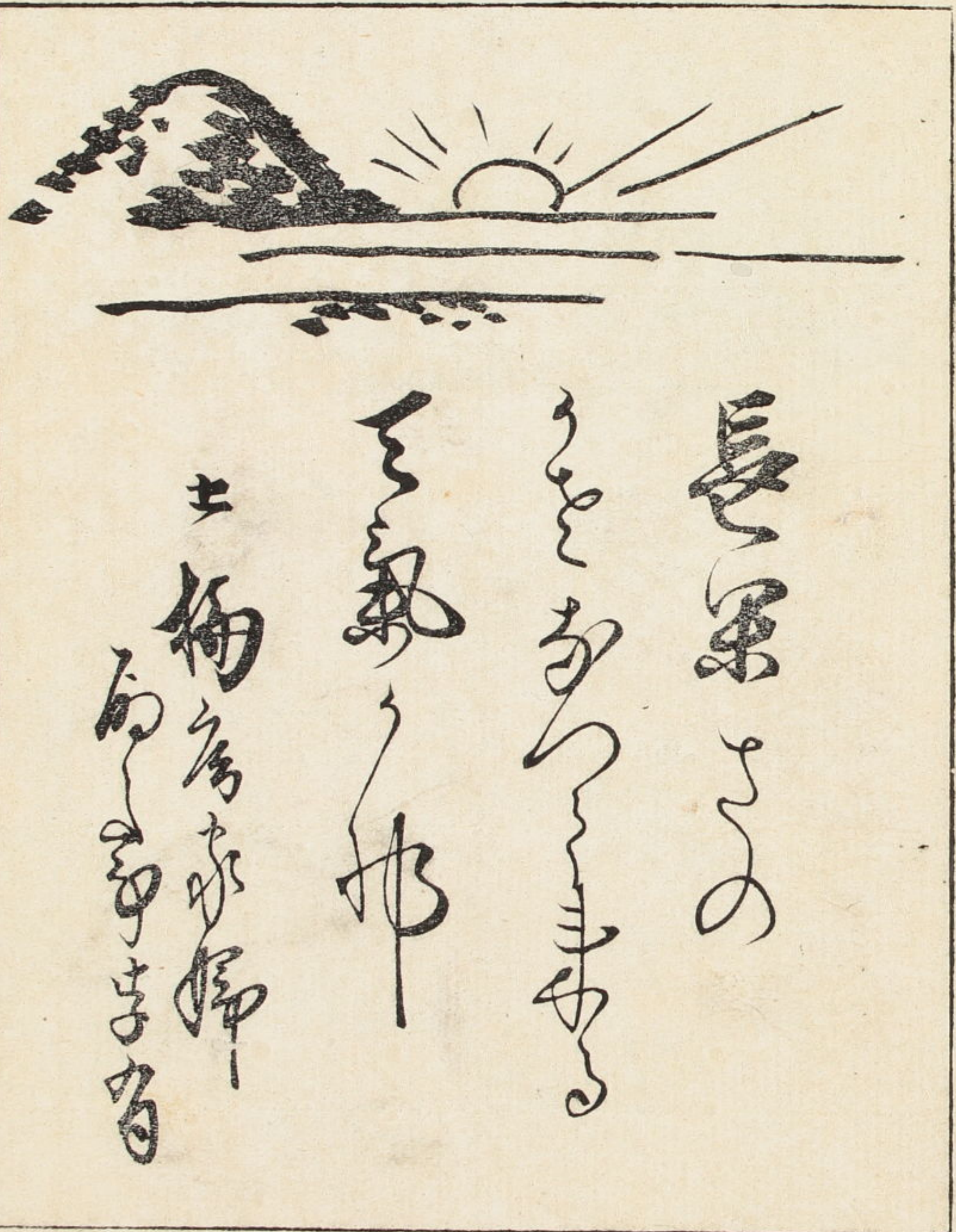
さくぬきまきうさきや梅りね  
 極目ハ人よ遠くうとありふ  
 我家のくちも遠れうおろしり  
おろし 一丸  
 とさしてもそのれすも梅の自ひら  
 持てぬよりそくそくや海道のり  
立 一丸  
 白き毛のふえりもれりたれき  
 只怪くはるくやまはれぬの中  
 是くする除おの煙や沖の舟  
上三林  
 初鳥海くぬよ明くを舞が  
 物あ

梅さくやひつさきく笑の持心  
 物さすこきれ相やすまそひ

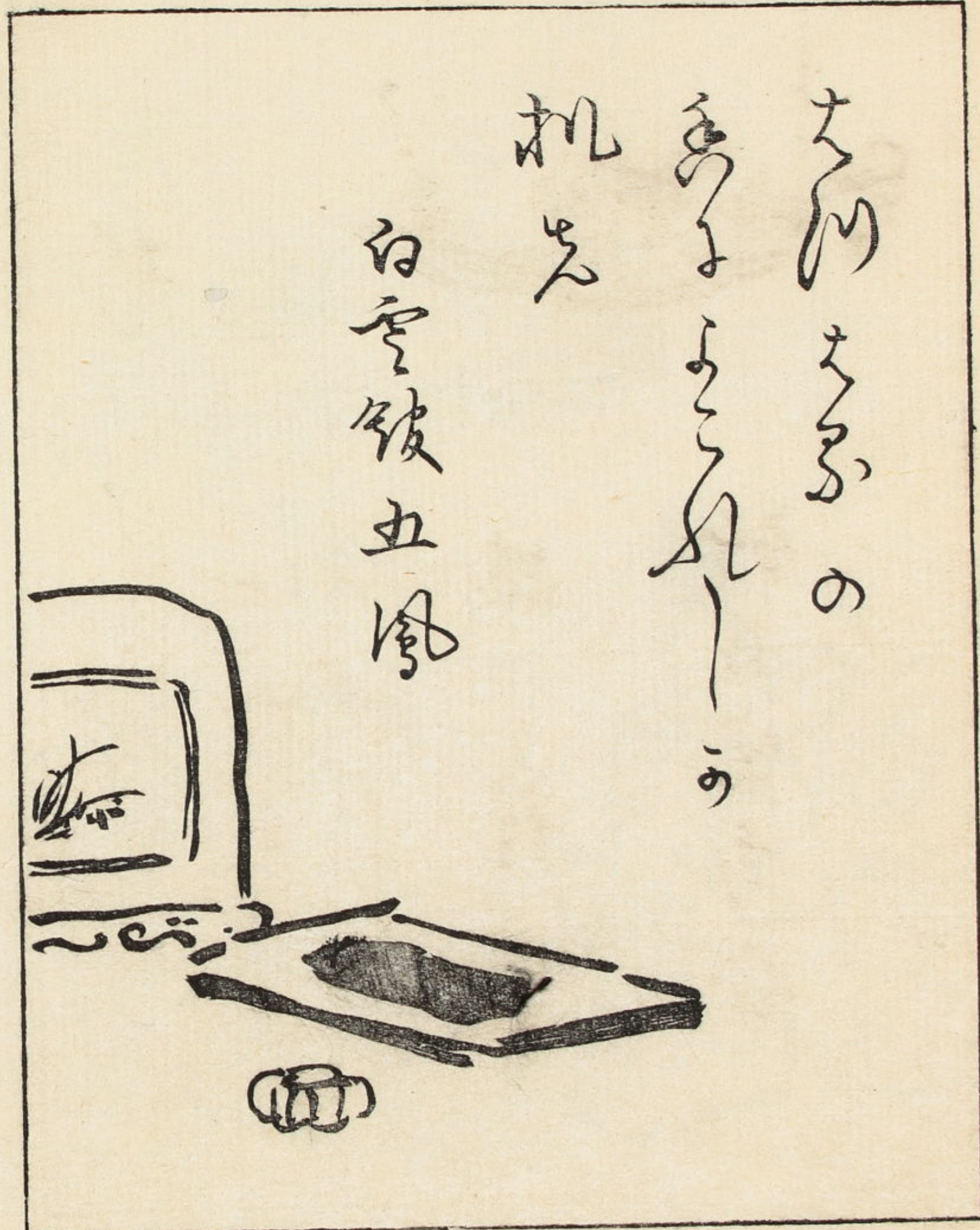
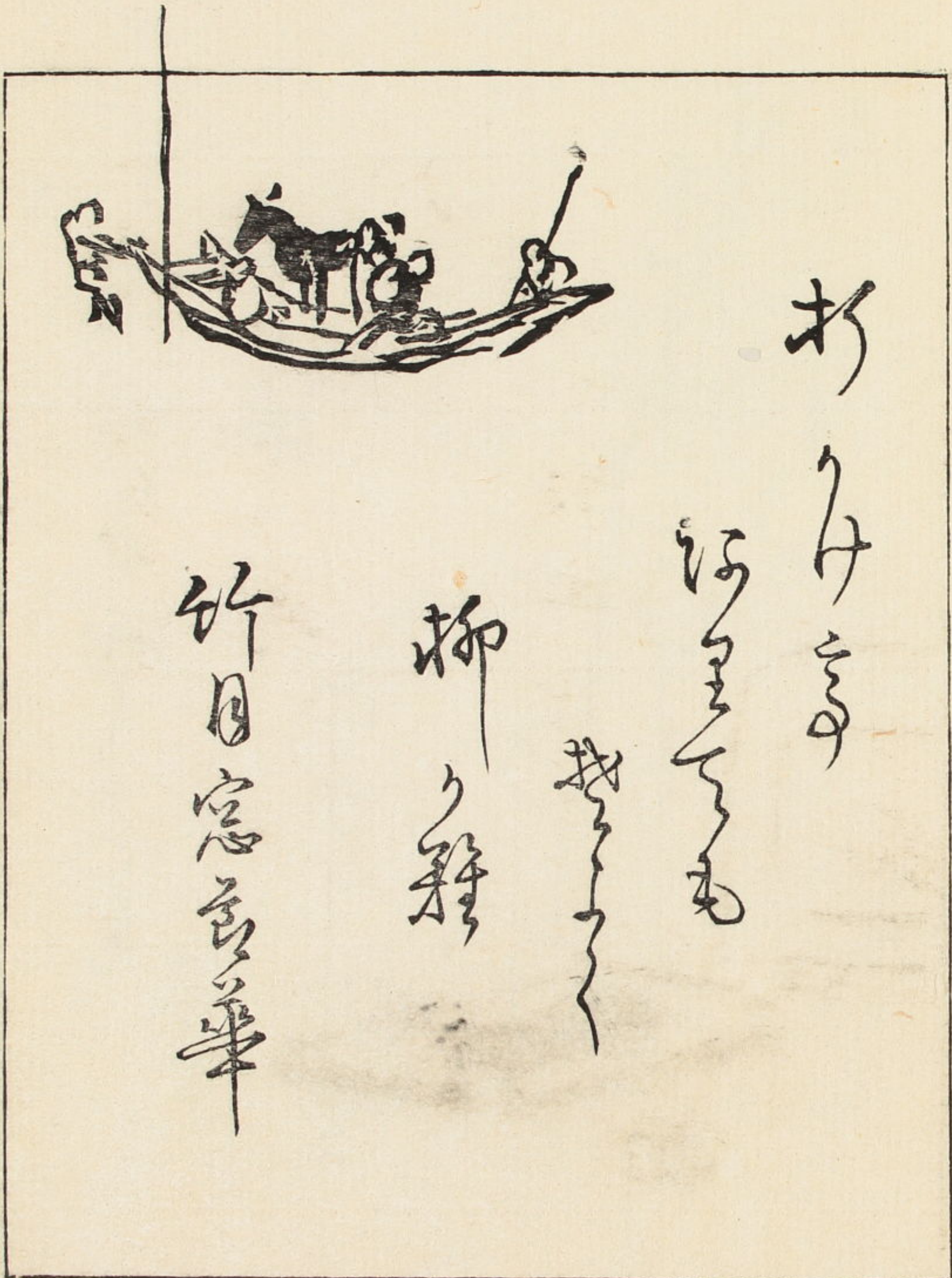
ほのろりとね産て後ありて  
下総船塔 浦月  
 えつてを六足流すくやま山  
 ひきやすくくまことまふ小ね愛  
全 穉終  
 床まを物よ先照りけりうか  
 文高よ梅の葉うくまらき  
 まさきまやおの隈おの隈

大島ひししはな中一山  
泉源山 山  
 草花の山より河や 春の色  
 加えてはくまをくくくつはまの目  
 常や春をく 軽業の自ふ家  
五 笑く  
 光るまをひききり 梅のゆきを  
 東やの先くはくぬきくは春  
 門このおのそくさう 湧りくま  
徳令虎 軽  
 旅人よまのせりく 挿き春  
 急をのめく 扱をまをたくり

松とゆ  
 只の目  
 成り  
 日梅  
 梅  












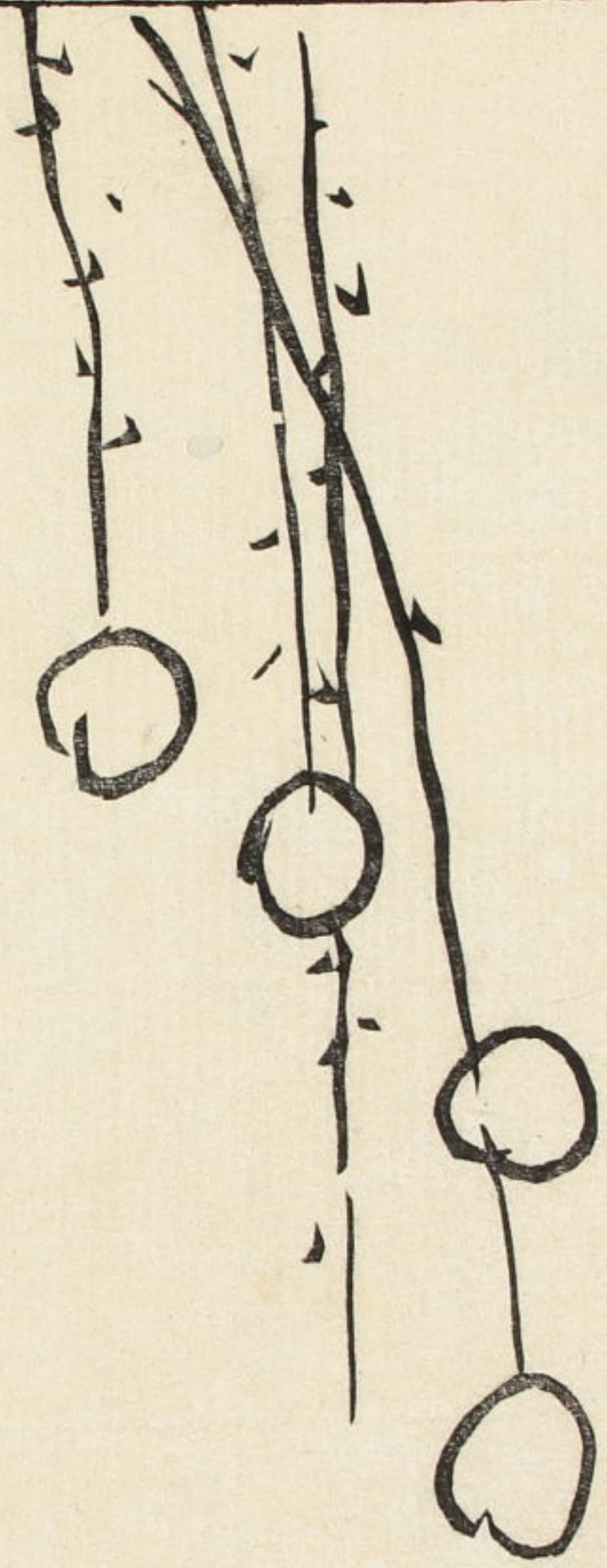
柳の葉

さくら

つばき

つばき

秋のつばき

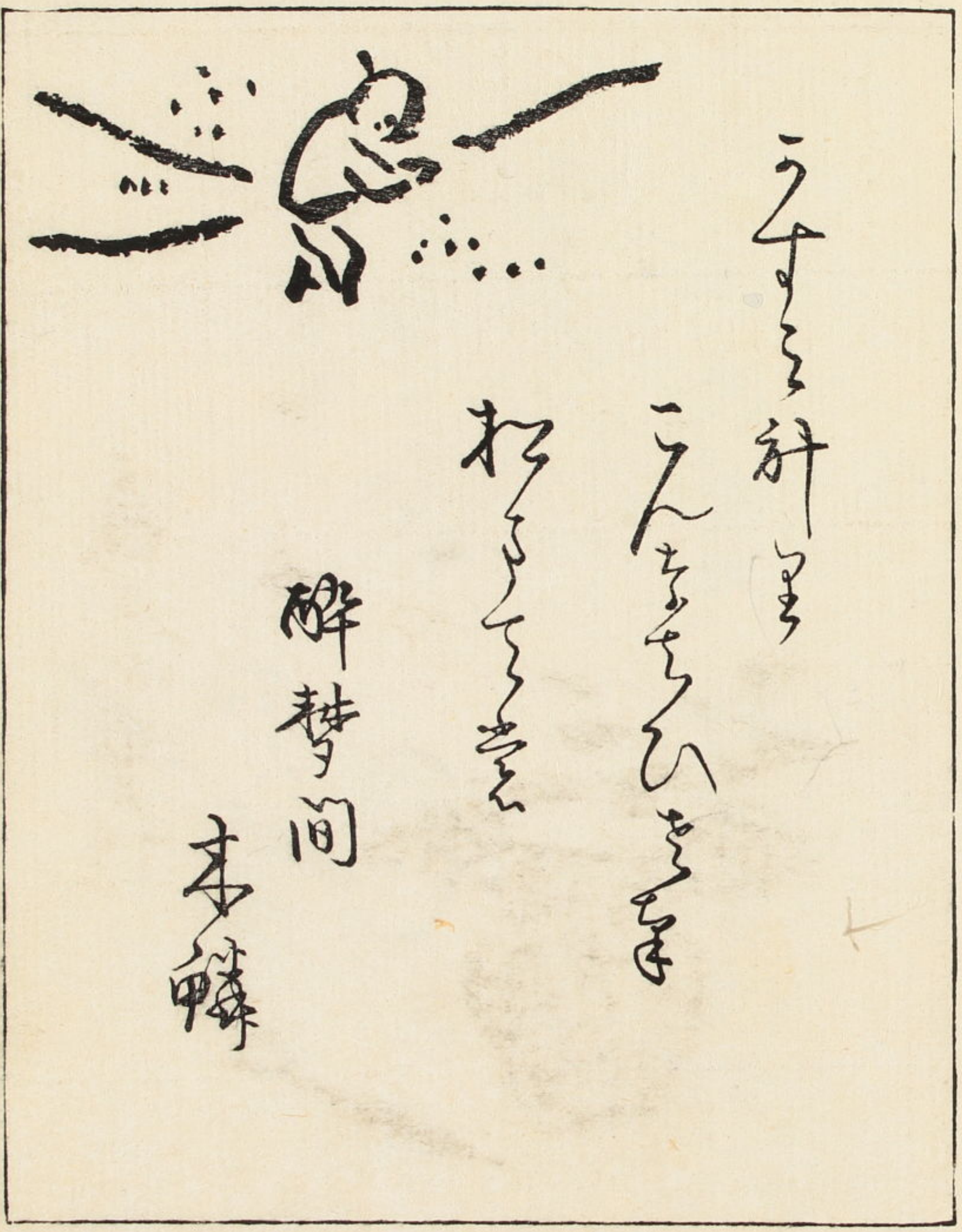



柳の葉

さくら

つばき

つばき



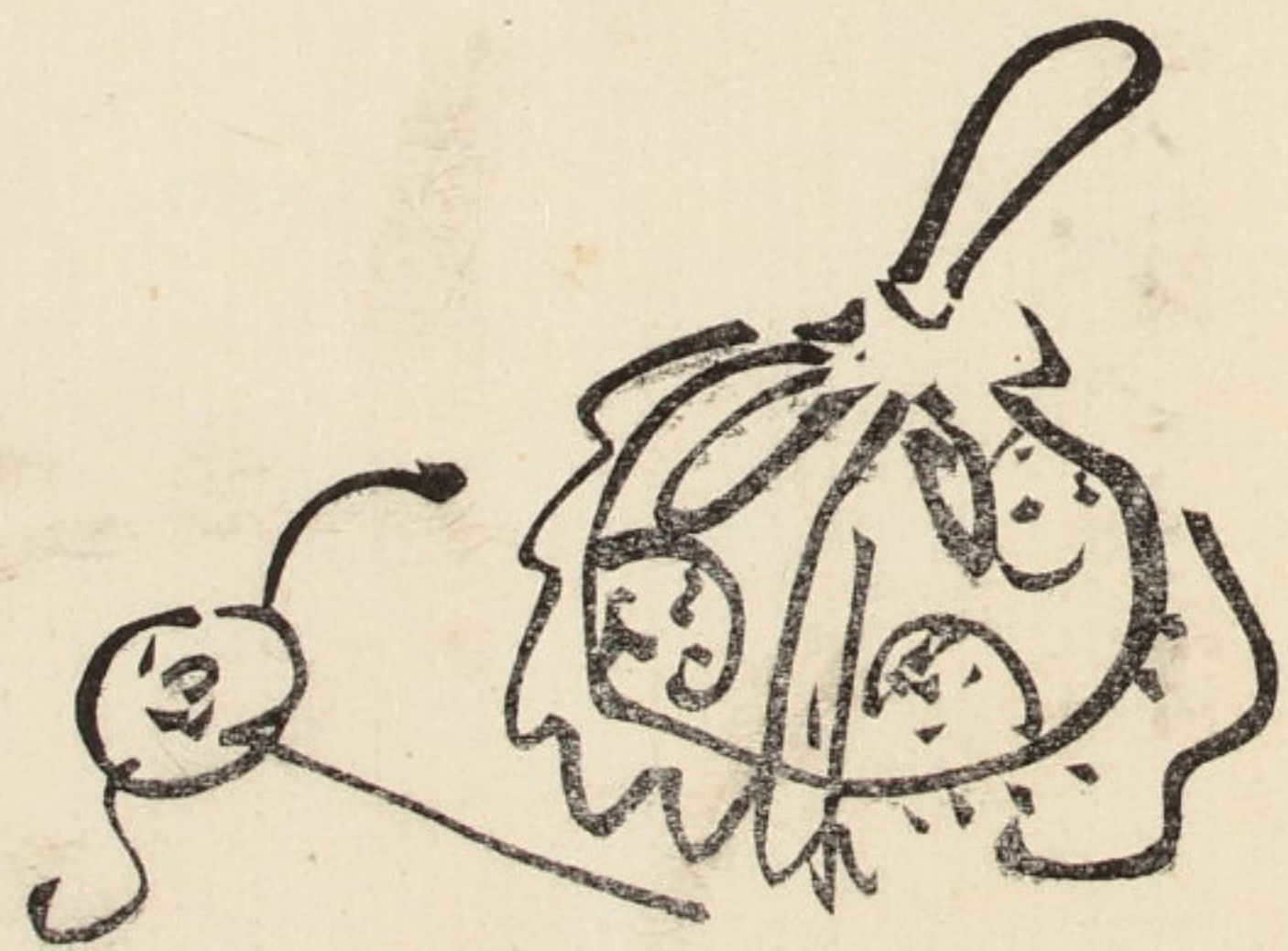
孫くすも  
 くれし  
 たる家の  
 白丸  
 音  
 御文書  
 極書  


十七

いま  
 の  
 くら  
 物  
 松令書波女  


十七

ちよよ  
 よい子  
 ありぬ  
 念の  
 精白堂免毫



依

ちよよ  
 持  
 ありぬ  
 喜  
 雲中水之和



門  
本  
よ

二我々之在の

夫乃んく本

琴照女



大園寺里山

雲の

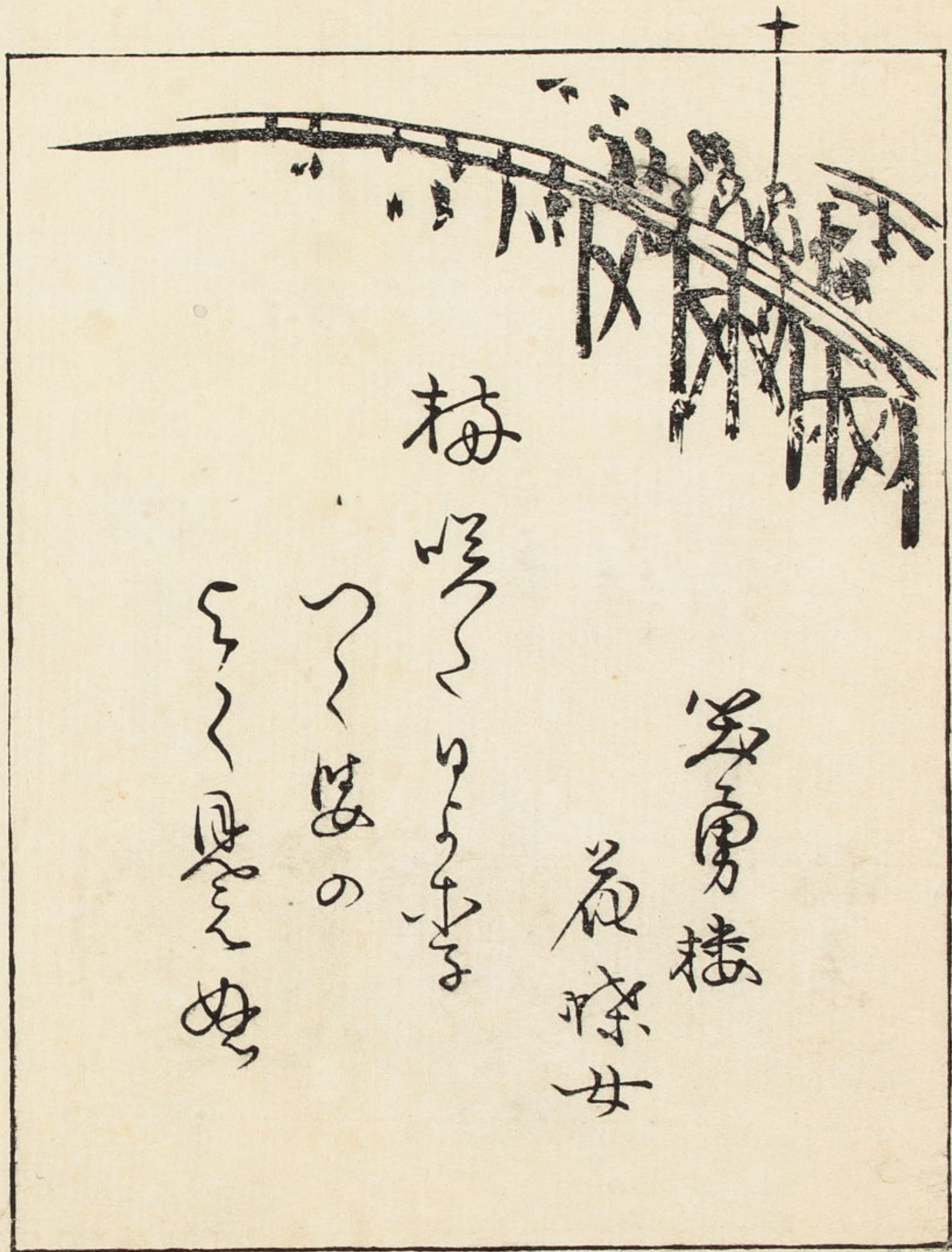
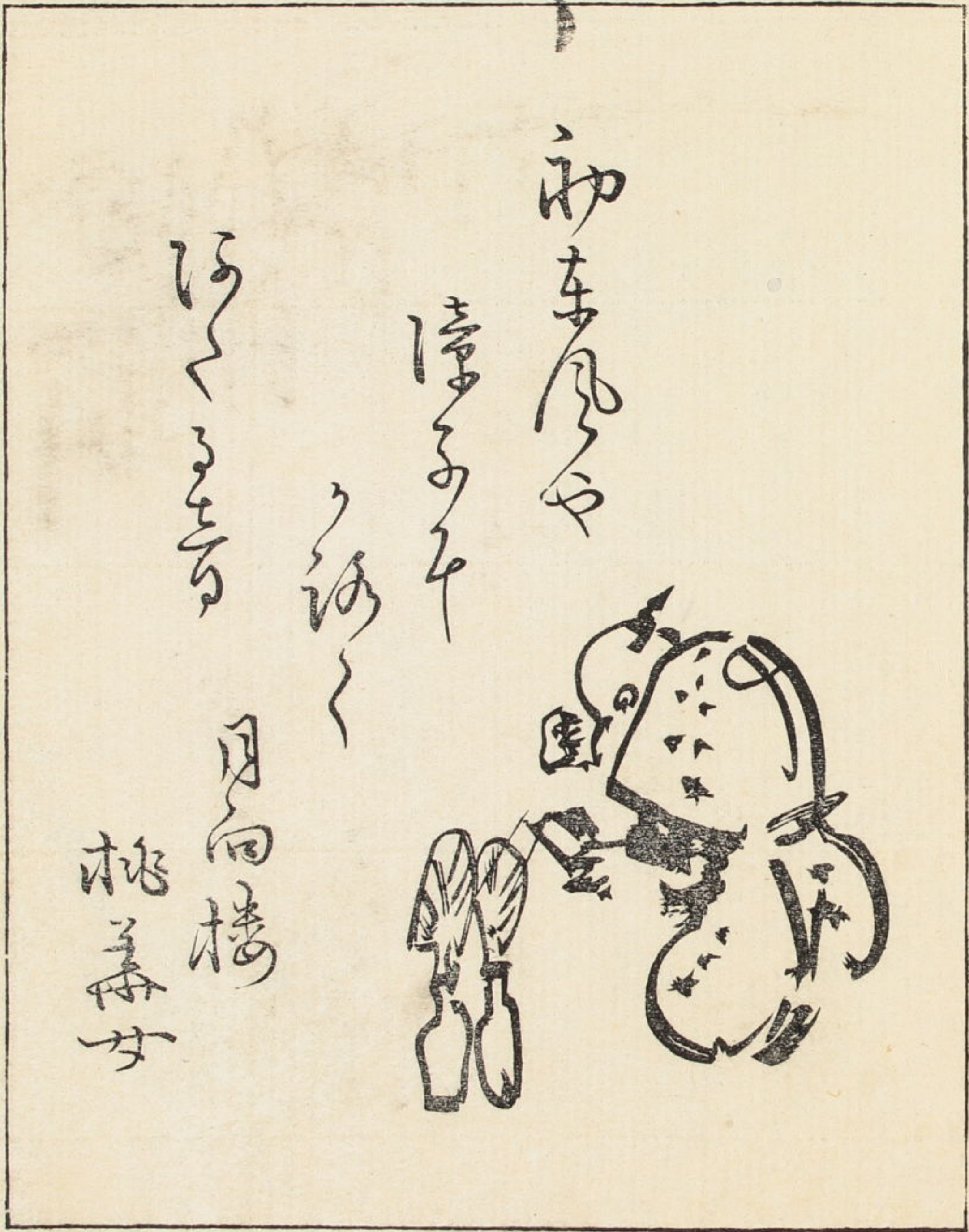
海

い海け

〜

ちうれ  
く本





及そそあとも

あそあとも

あそあとも

一鼎



茶のあを

あそあとも

ちんちん

あそあとも

あそあとも

あそあとも

あそあとも

あそあとも

あそあとも



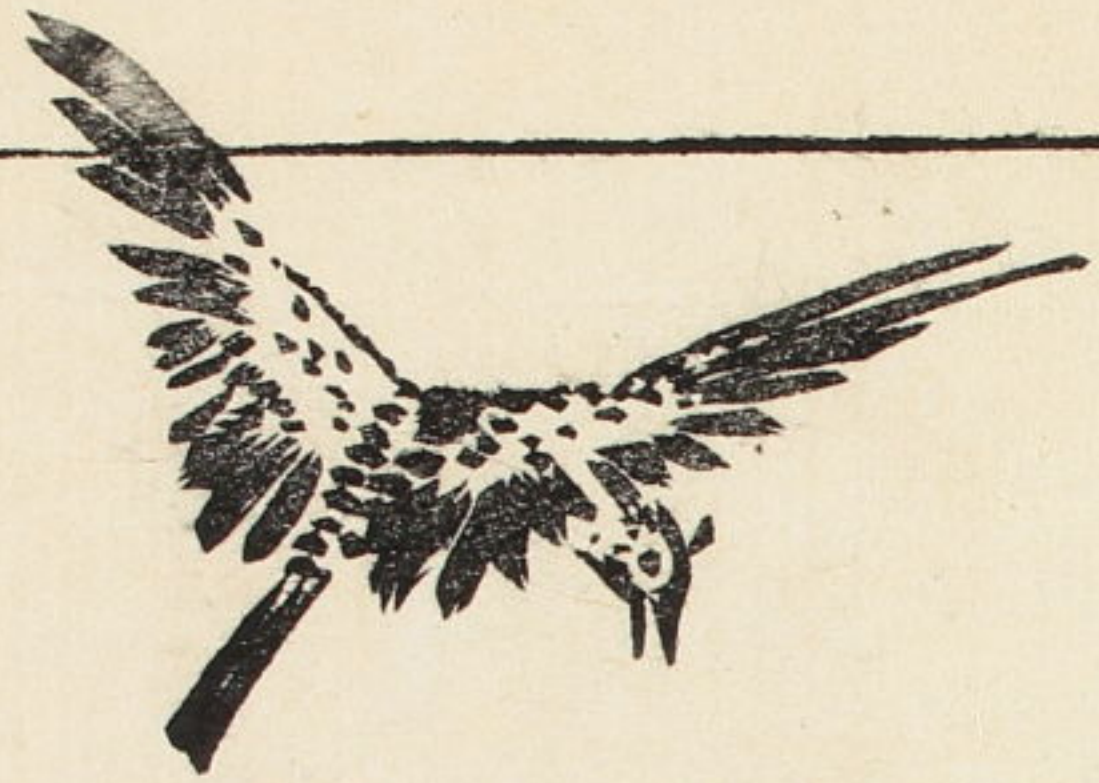
あそあとも

あそあとも

あそあとも

あそあとも

あそあとも



茶花のこゝろ

一

ちきり

極品

茶花

茶花

ふくや

めいけい

ゆき

木も

茶花

在位

湖石





知足第一樂

一之樂は

まこといささか

様



破六指棠丘

雲

ま

志ん、まを

極





武田布  
 ちりきり  
 線長  
 好ふふふ  
 用ふふふ  
 様々



柳を  
 春の海  
 ちりきり  
 けり

ちりきり  
 狐渡

山田

寺の御子

一志くす候



批漢書

武田

歩月

武隆 松葉巻丸入

大馬巻様

又々 好様





元日空をせらるる

寿まは

いんげん

下聖

戦名

定白

分と梅

昔より

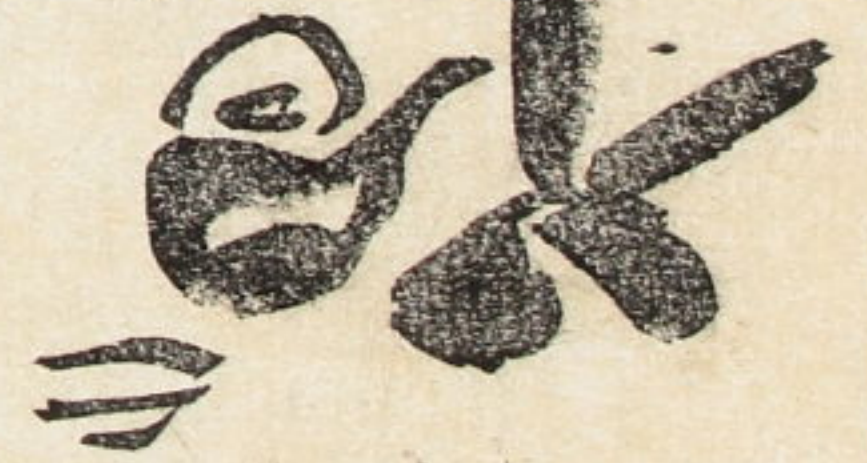
二と

武王

老梅

明く窓

玉桂



神木を世にあり

全王

梅

春より

紅

能きくを教のねら

梅

全王

全王

けふ

かゝ梅

葉

二

武王

梅

玉桂



神木を産む所

全

梅

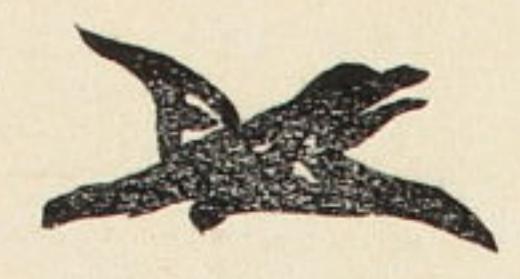
白

梅 花 枝 之 節 之 木 也

五

梅

け



元 日 之 節 也

壽 末 子

心 之 節 也

下 聖

裁 名

完 白

手 六

たきくさるぬ

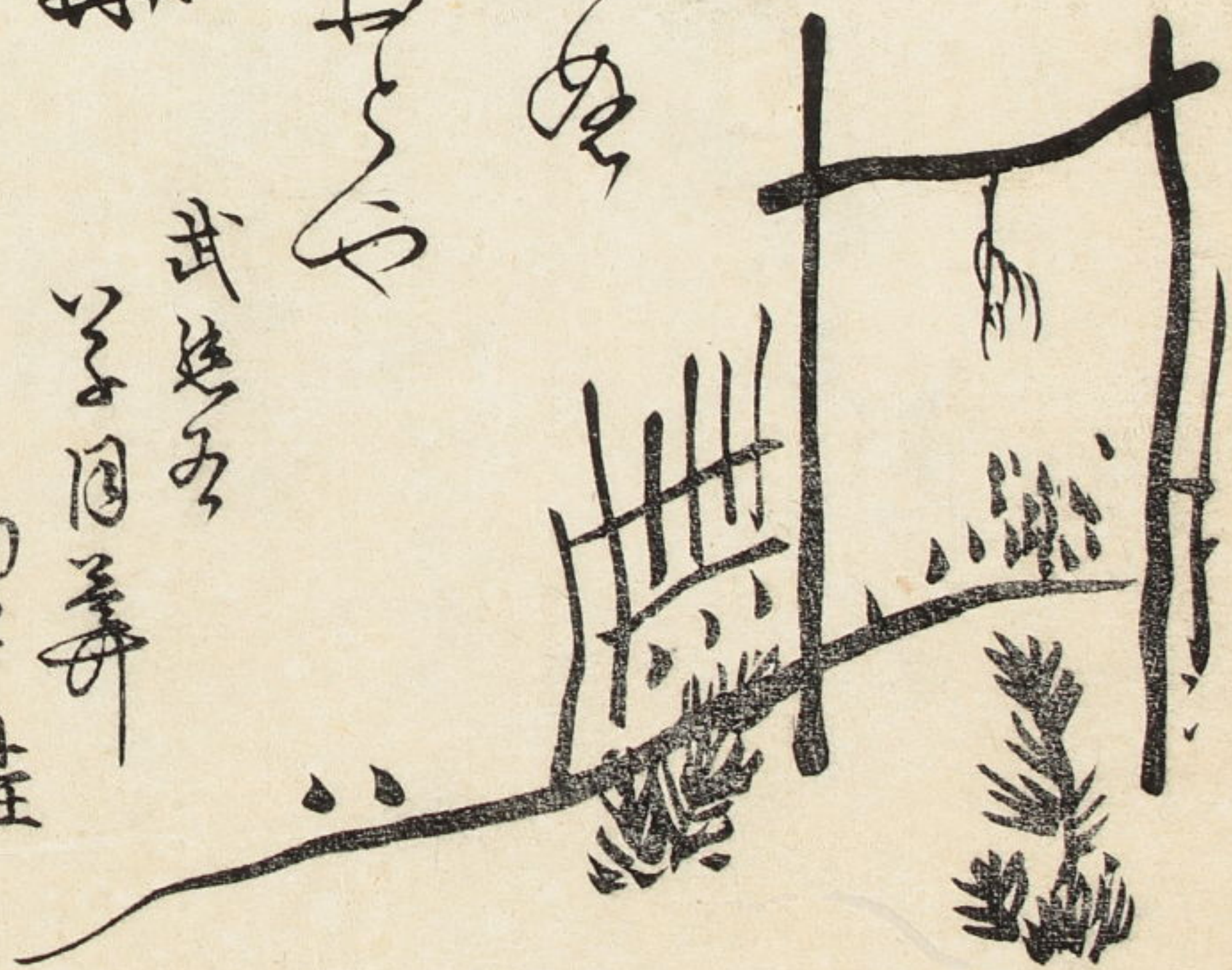
雪駄のおら

ふゆのふゆ

武造り

雪目

里桂



老うら

かきくさる

柳

老川

老川

井多清

たきくさる

支目



一本しきさく

多子梅やまぬ

海老名  
花要

まきぬやぬて

重原  
何常

帆くそ舟のり

吹くのとて 絵の巻

あそそ梅を 一英

去々るふ  
そ老の門や



風をふか 密常

あそそふく 田舎

うすのさや 仙路

くちのさめ

何許の  
梅多子梅のさくはり



梅さくら

花多持る

川通

出づる 一層

お月をひきあすの

まきまき 全を名 月をききあす

巻あすの 遠路乃 武田節

さくらさくら 七武中 月并



あしあし

山坂のあし

さきのあし

秋さくら





細つ折る草

幸土浦達

綴り

美くもるや 春の雪 晴河

そよよとや 春の風 久米の

うれうとや 春の 幹子

たろとろとや 春の 物まき印

けろとろとや

おくのり



あつとろとろとや

まきしり

全巻

あま

銭様

あつとろとろとや

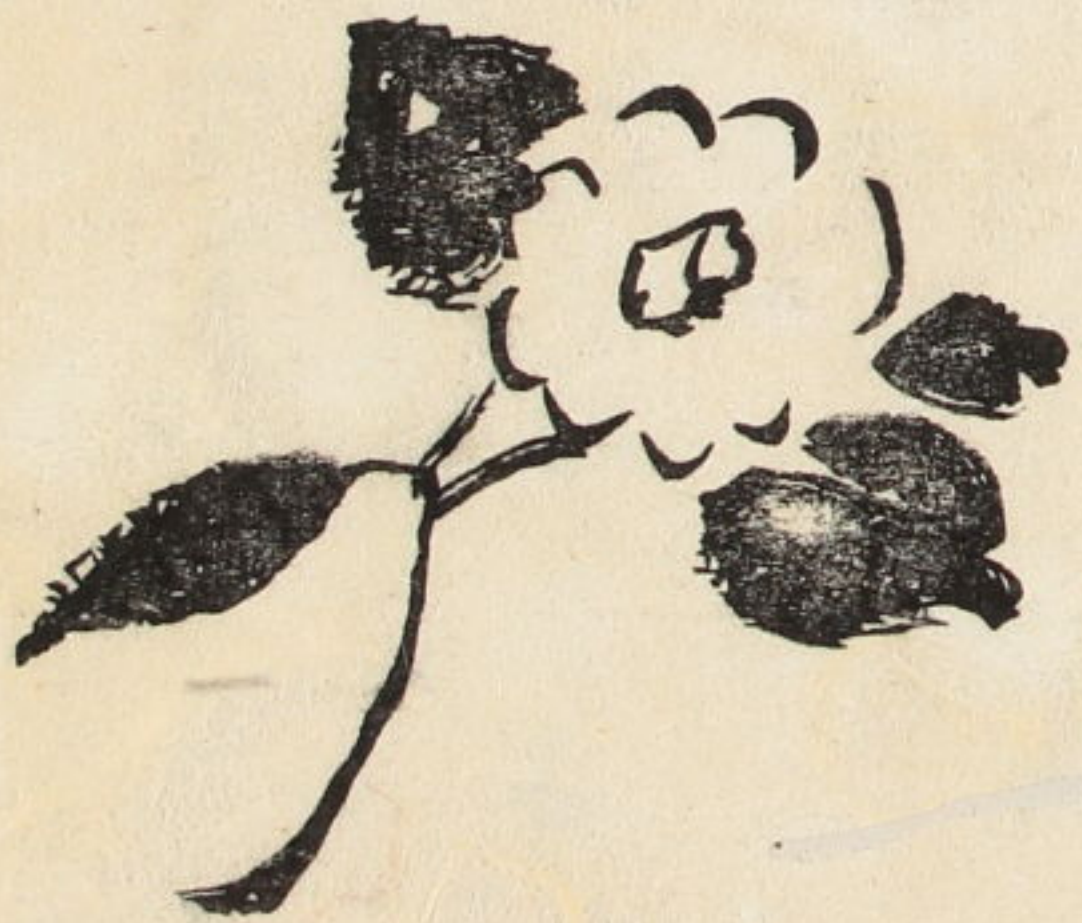
あつとろとろとや 我々

あつとろとろとや

あつとろとろとや

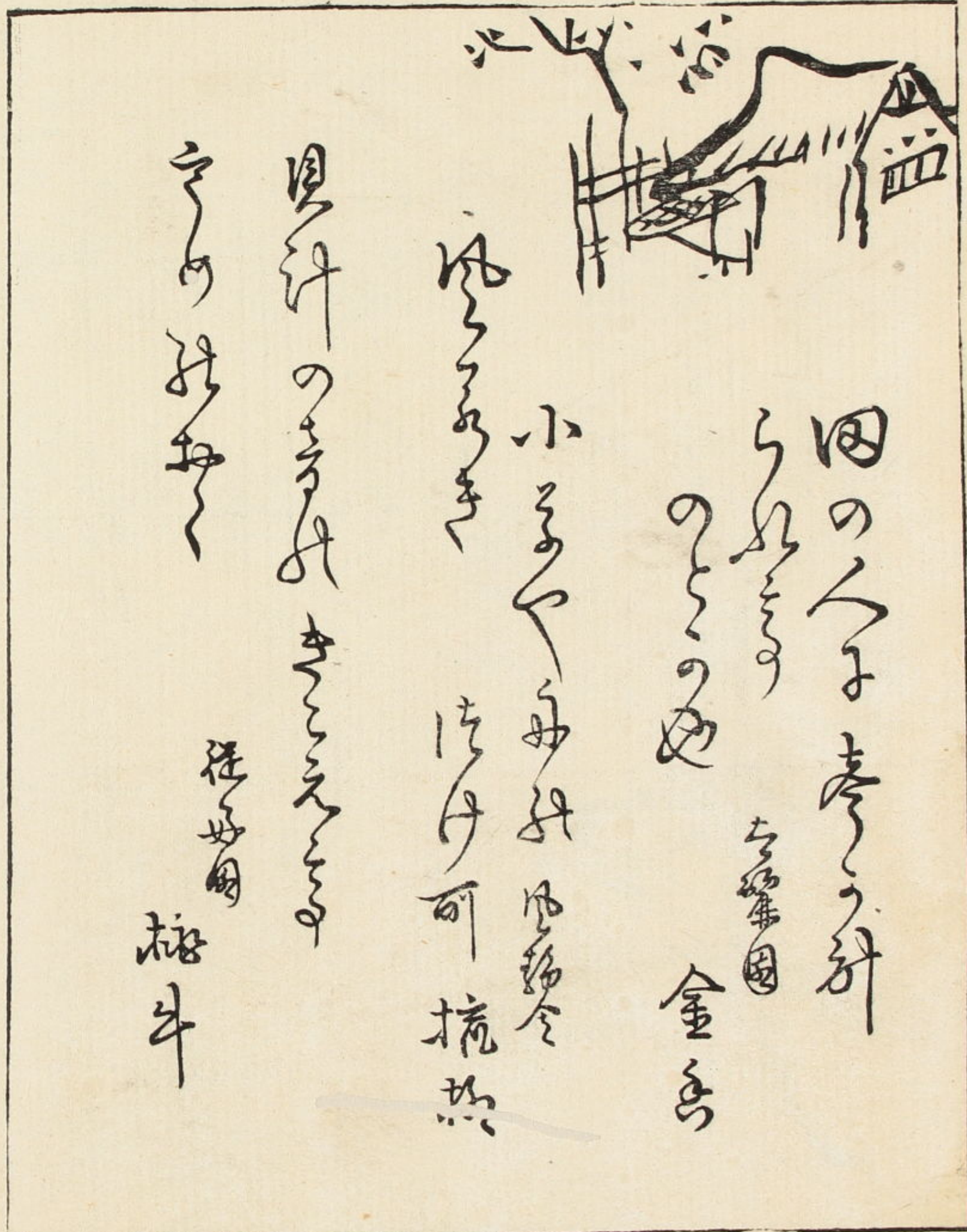
あつとろとろとや

あつとろとろとや







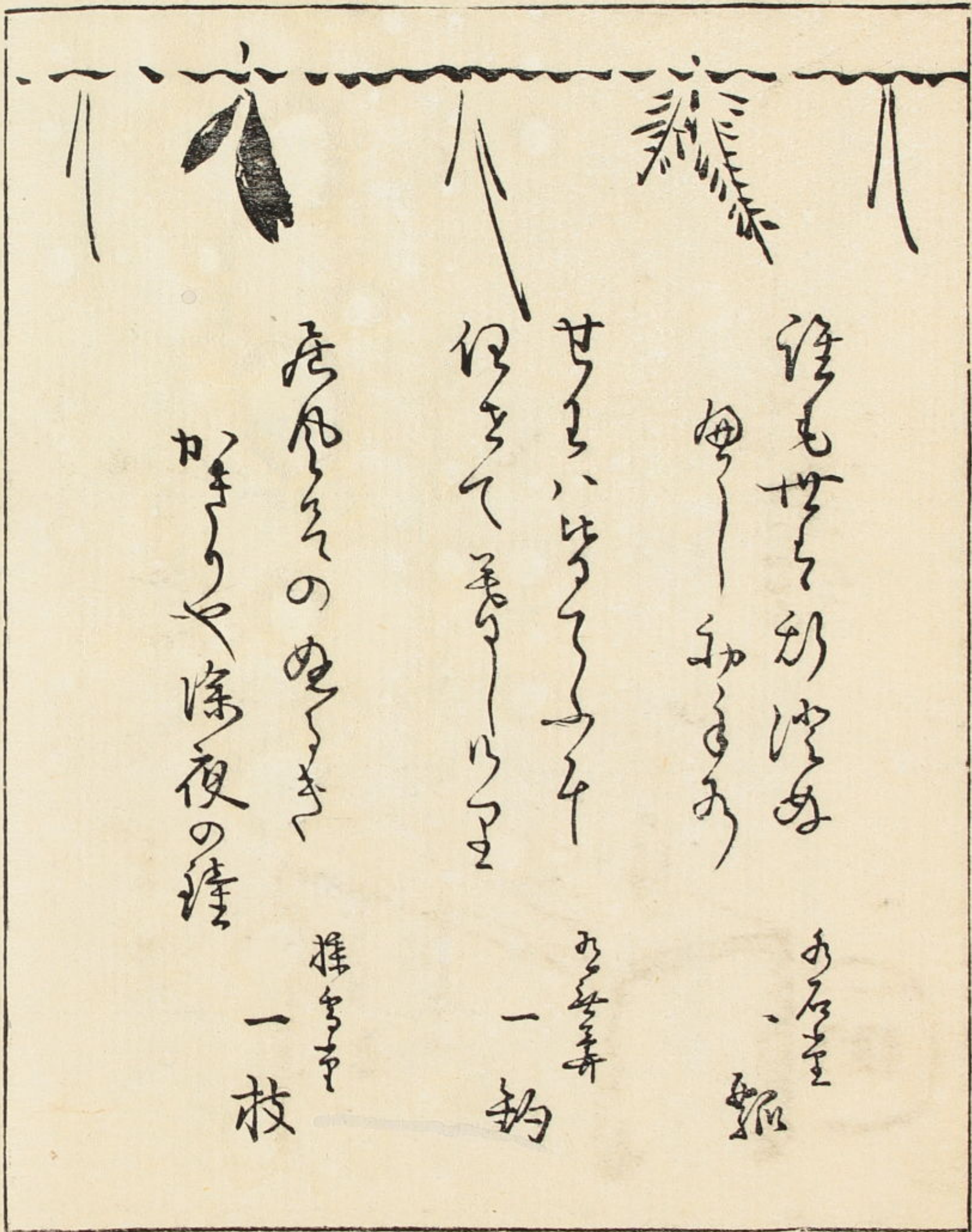
採  
 か  
 左一  
 二世  
 橋



田の子  
 ら  
 の  
 金  
 小  
 可  
 採  
 思  
 之  
 糖  
 牛


  
 美人の志の女 月夜 一得  
 白やおれしち  
 愛はれてあは 子守 一許  
 せしまをささか 暖水 一番  
 くらえしきり 三  
 手はくちよ


  
 由らりと和の 月夜 一陽  
 さすや 年徳  
 屋をくらもゆらぬ 言 一  
 梅の月夜 言  
 ひとれひまを 山 一粒  
 移すや山



修も世々おぼや

ゆきしりあ

あそび  
紙

甘きハシク〜

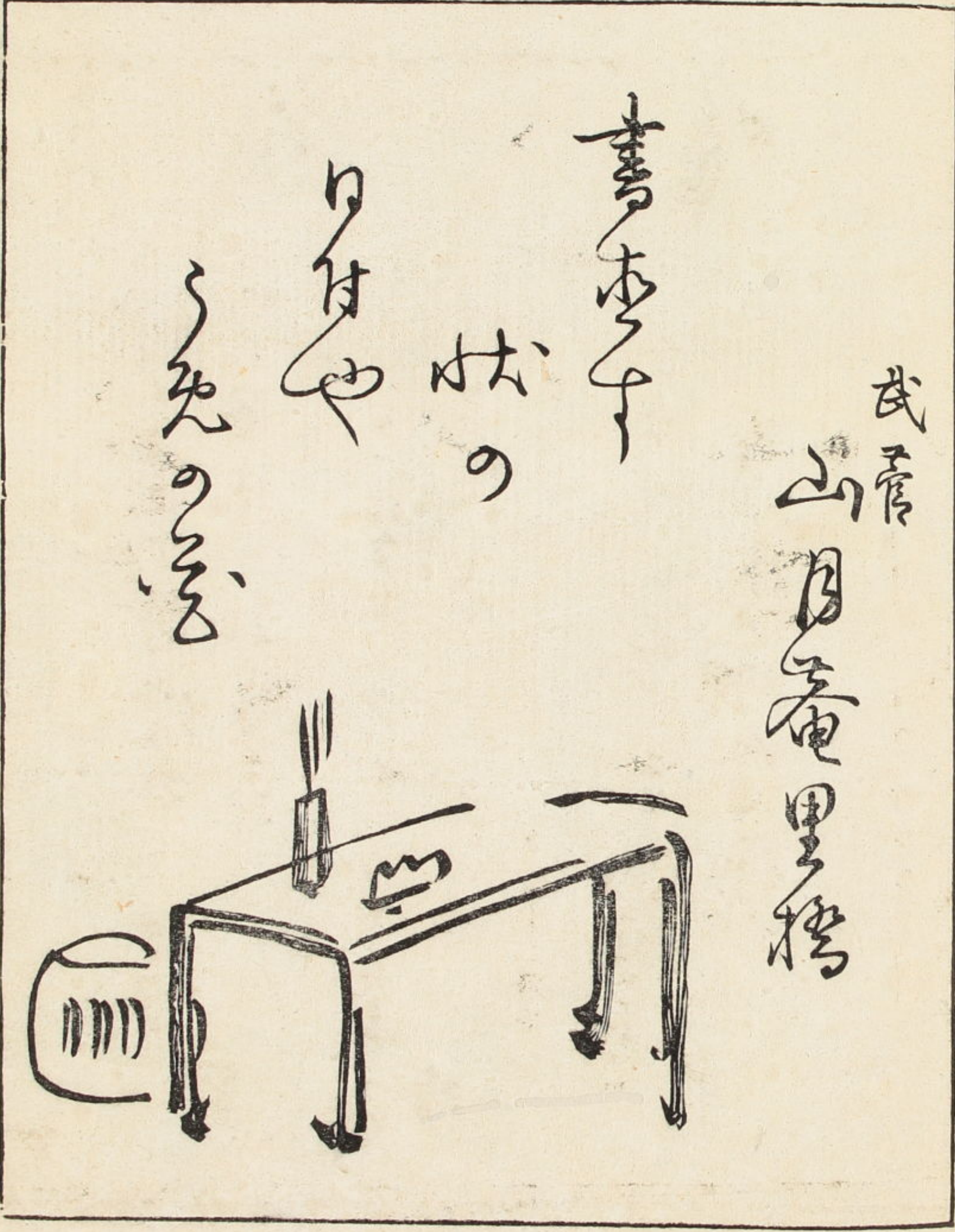
何ぞ〜

あそび  
一釣

あそびそのぬき

かきりや深夜の静

あそび  
一枚



武蔵

山月庵里稿

書

おの

り甘や

く免のさ

梅さけと

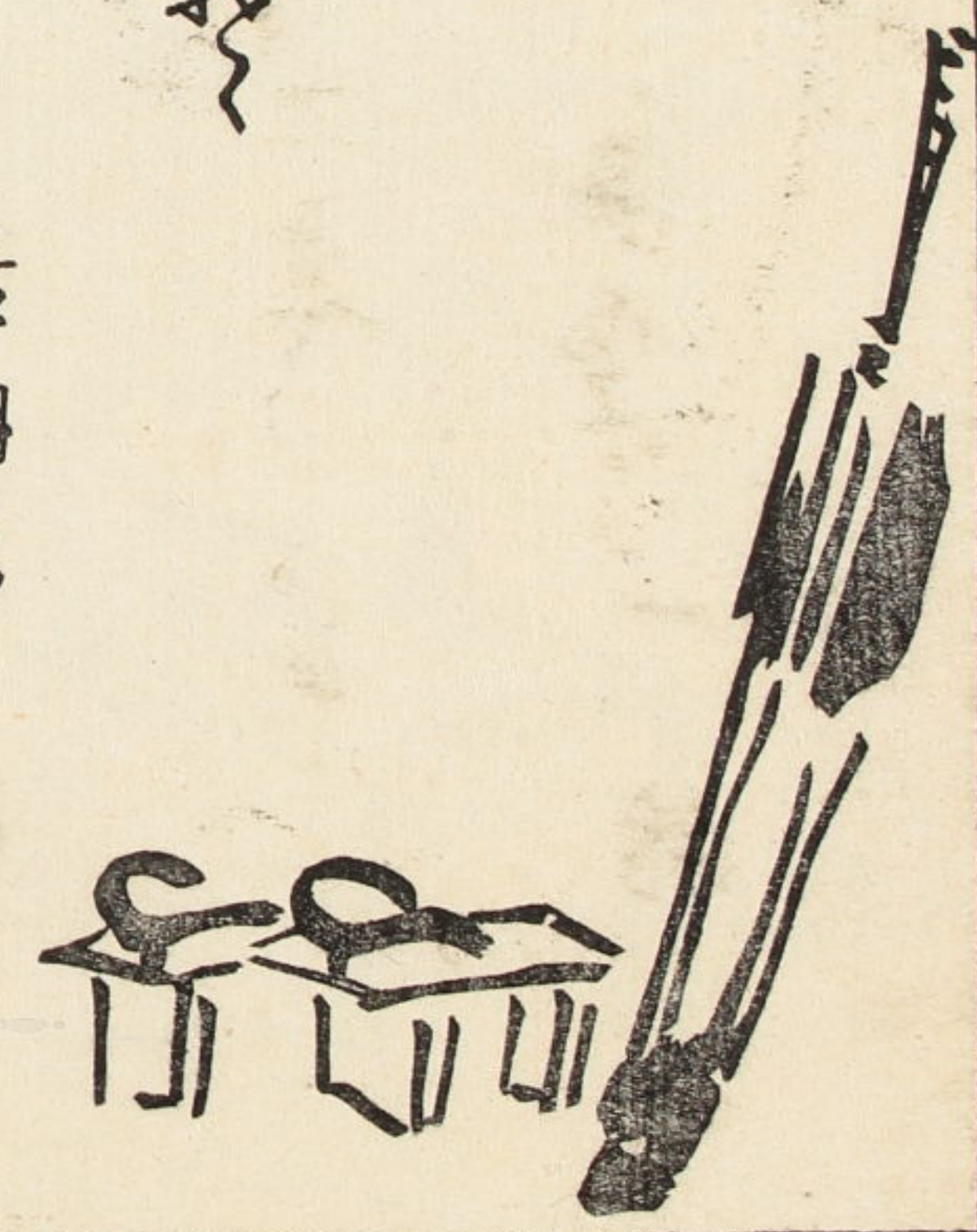
つらみ我々

はらみ

信潮法

向ふまへ

曉の空



桂多林

如月

清々たる物

うらみやうらみ



好みの物や一本

風情何ぞ

英風冬一册

三十四



舟人の持りたる魚也

お目撃す 森夕 喜みおの

ワラフのもあまらぬ

あまらぬ 幸風 幸里

美く

雪をよみたる也 長島新

福壽子 尾文

ふしんか

かきこ

時のくまらぬ

梅曉

小糸

えりお

何千何千

注進 柳園

まじり ともひの解

目撃す

山越

栲



五  
母

言

横川

と  
如  
る

極  
多  
母

裁  
多  
板  
妻  
松



妻  
風  
の  
ま  
ま

多  
う  
も  
の  
笛  
少  
う  
海

甲  
華  
崎

左  
妻  
多  
母  
徳  
仙

梅より

とくさくさ

を奥所

里月

新梅おとす

昔も美あや

新梅言

二月

のころ

新笑を

あつたや梅

おきぬ 招桂



妻れりや

海のは

さうもて

善き事 上毛市 ぬる

晴ぬそふよ

主 妻ゆ水 春のあ

柳葉

玉の春物のみも

又ほくさくさ

甲子年 千歳 ぬる





花のさか

極三草

芳

朝さくも

抽れ



お金田

かき

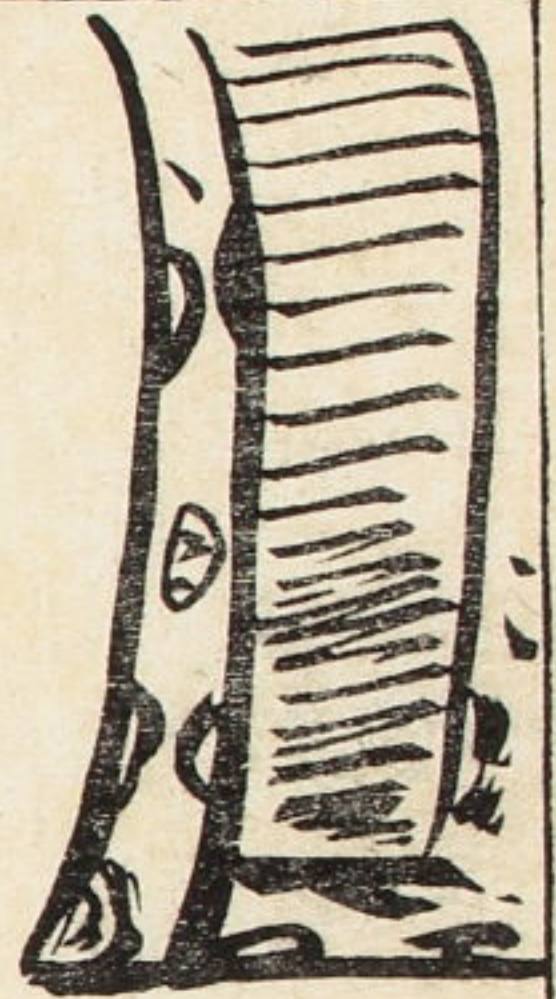
扇

海

さし

かす

三



子舟のうら

極楽堂

松の風

晴河

春の月

一雨のうもの

極楽堂

都母

ふとやまの月

ちきり

武吉

室籠更

たやち

りり

極江

さつ

信陽山達

丁

柳屋

持

か

柳屋

渡

往還

渡

去秋

あ

船

柳屋

春月

梅



枯枝もたさほく結や  
く矢のあり 全連 秀月

空のうらや みづうま  
未山はれ 山 海

片しうや

うれい うら 成



ちうしや  
ええ 少 成  
まらけ う 成  
ぬ 皇 成  
う 子 成  
う も 成  
少 成 川



詩人を何ぞや  
子つち山あいの那

一露頃 木更



正月のちりや

海土う積るも

芳月

雪よ水垂るる

白志

穂交

雪よ水垂るる

穂交

門雪也

人も

葉も

神

也

雪も

二海

柳女



おきりさし  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ



あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

しききりく

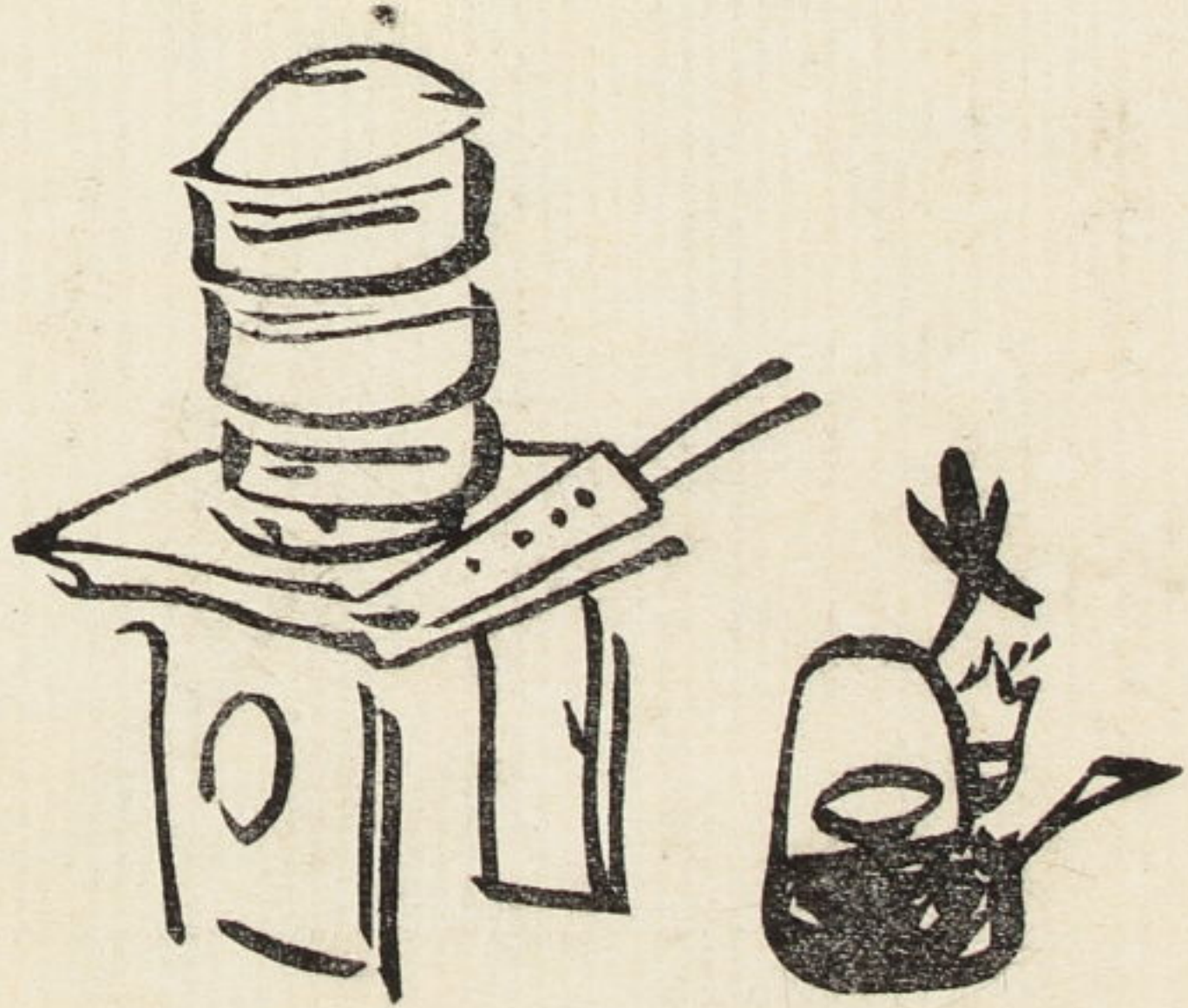
隣の家や

標の森

武彦彦

標の森

標の森



武彦彦

標の森

牛蛙

。標の森や

いふむらうのふ

くくくく

日の入きたるもいふむらうのふ

武彦彦

標の森

袖の風も

ゆれそはる柳の郷 全 全 全

新...  
...

武...  
...

元...

...

...

...



物...

元...

...

...

...

...

...

...

...

...



...





上総海野  
松尾を  
きく

上  
暁春の  
藩の跡  
うらねら

武田  
白首極楽  
くらし  
きく  
梅を



常々、園画の  
きく  
目ね


あな  
甲ちつ  
のり  
蜀人

三井  
おあり  
おあり  
おあり


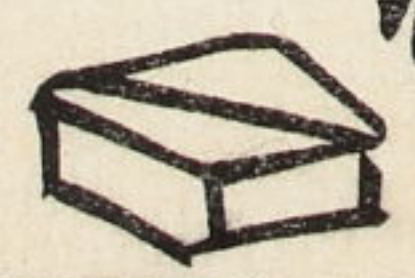


上

武徳寺達  
 葉子  
 砂子別  
 子田いあ〜梅子  
 持也〜め  
 〇 〇 〇 〇  
 旭彦  
 全 旭彦  
 〇 〇 〇 〇  
 全 旭彦  
 〇 〇 〇 〇  
 全 旭彦  
 〇 〇 〇 〇  
 全 旭彦  
 〇 〇 〇 〇  
 全 旭彦



白梅やあま〜山子  
 か〜つ、  
 全 旭彦  
 可起女  
 子森抄を〜れ  
 全 旭彦  
 唐〜之〜様  
 全 旭彦  
 朝毒子〜  
 全 旭彦  
 旭彦  
 全 旭彦  
 旭彦  
 全 旭彦

四十七

旭彦  
 二

何々々々

鳥々

くまの

門の

河東

一書



江の柳

お花

お花

くまの

くまの

くまの

武原谷梅り連

中斎月経



新開

武蔵川  
深之屋

芳隆

梅之也

袖

小半時

松源亭車牛  
蘇摩馬

梅ひき

甘之

あま



新開

①  
②  
③  
④  
⑤  
⑥  
⑦  
⑧  
⑨  
⑩

梅屋

お茶の道

人往きの

藤屋

うめくさ

一本株

さあや

全 ねりき

深川

そきり我らさあやの

あや

全

まき

遠家

和屋

徳

全 藤屋

お新

十神

全 藤屋

お新

の

全 藤屋

お新

全

お新



清き水も  
流るる  
山崎川

松崎  
碓氷



梅の香  
白土  
白土

松崎川  
松崎川

松崎川  
松崎川



松崎川  
松崎川

西月の影も  
松崎川

松崎川  
松崎川

松崎川



おみよも

おみよも 達

名の付三の何

七 存 子 承 宗

あまのこ

つや 目とく

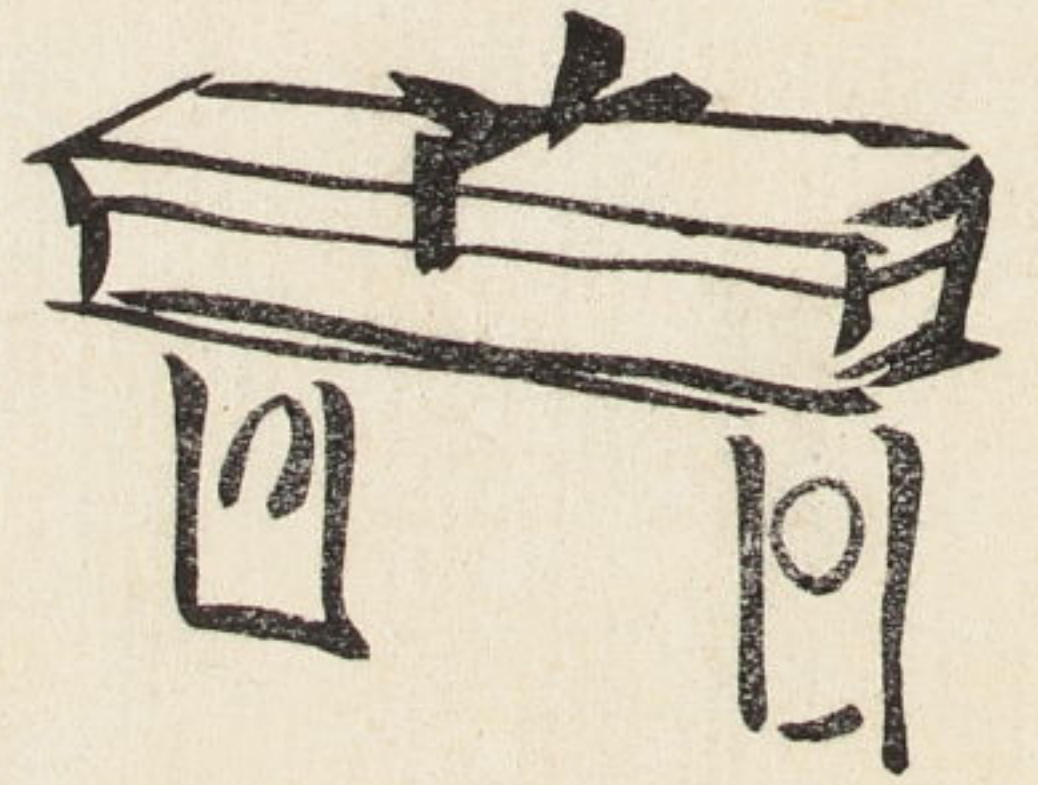
五 酒

まはる

何ら

五 柳

えの酒やき  
 のき  
 全連 福有  
 暖の  
 全 承 宗  
 全 承 宗  
 門  
 全 承 宗  
 全 承 宗





水水

松守水

長秋

卯年

ふき人のすけきさく

くさくさく

全

五才音

松守水

はつたてのきさく

きさく

全

松守水

松守水

はつたて

はつたてのきさく

全連

松守水

松守水

文旦

はつたて

松守水

はつたてのきさく

全

松守水

文旦

はつたてのきさく

全

松守水

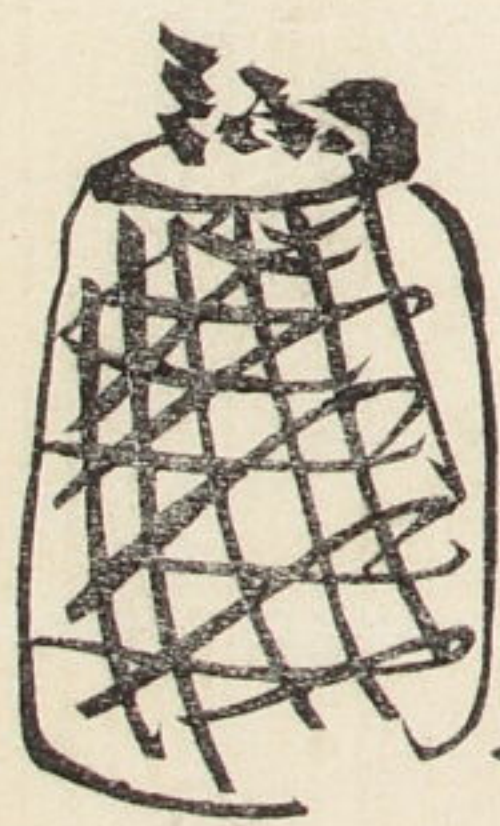
文旦

文旦

はつたて

はつたて

はつたて



松守水





藤のまの白ふのめんや  
まきれんを 七森 ちんまのり

梅のこけり  
二日たぬるぬ 立 信古

り枝のま  
静ぬぬの針の立  
ゆきまの静 らま



あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

PTP



舟車は  
けいせい  
小舟車

仙真連  
松浦  
初更

天うまき

おのまき  
おのまき  
春書  
松中

まき  
向  
向

松中  
松系  
松

常と我  
り向  
全連  
一連

下流  
河の川

松浦  
松浦

舟車  
舟車  
二子船



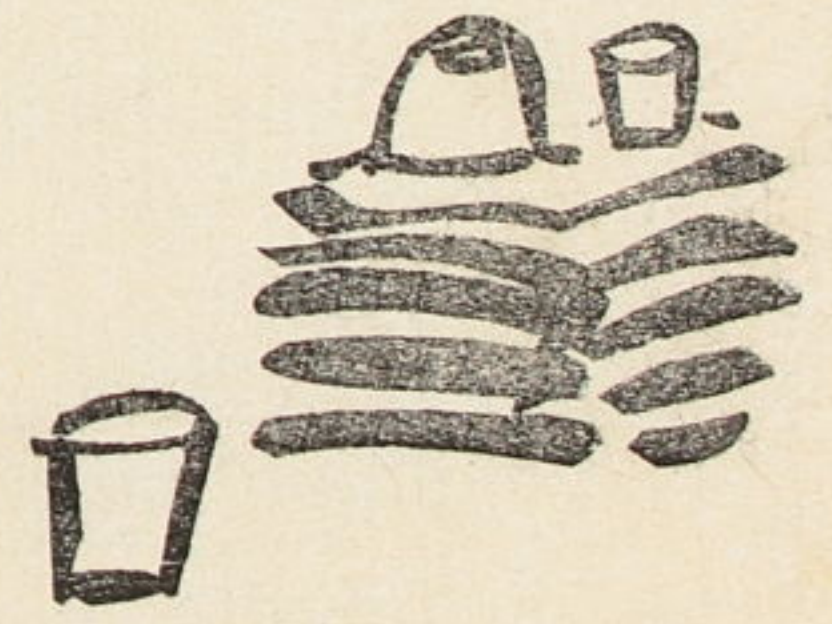
かろけ

春の駒の上

全連

南角

杖



連くま

きや

春の駒の上

きや

袋角

三井

春の駒の上

早急

吐笑

手傳ふ

林の葉を

吹く



全連 柳角

千向

川

柳角

欠す

柳角

柳月令文窓



石のつらさ

扇夏

梅のつらさ

子殿のつらさをうか

風もあけ

つらさのつらさ

あつたつらさ

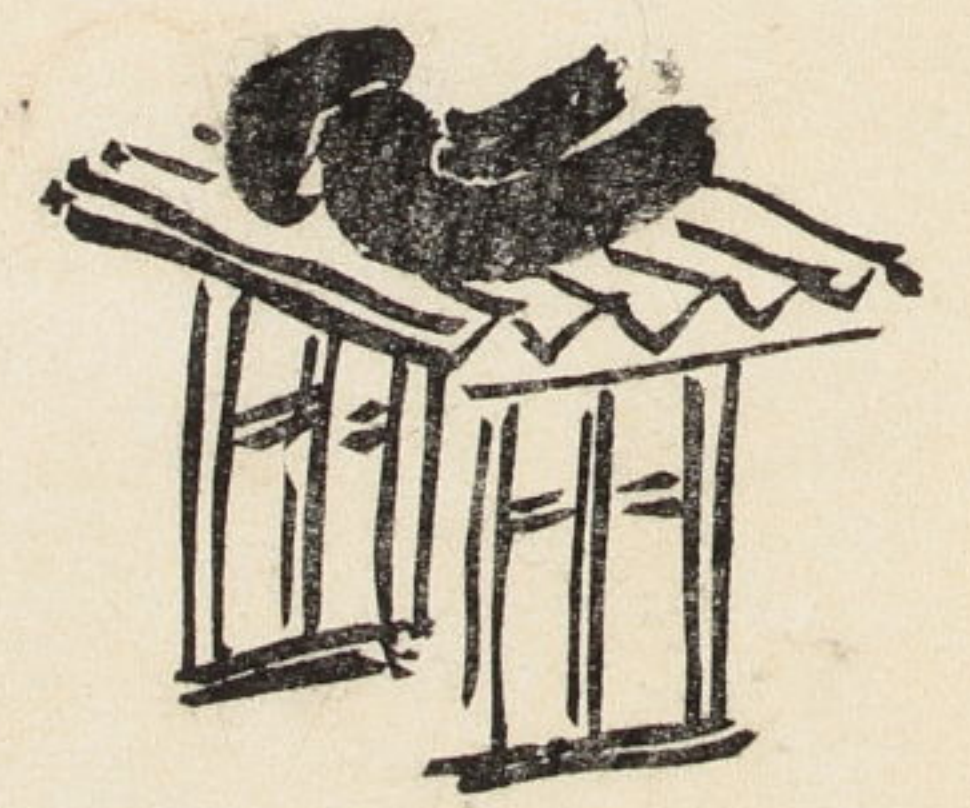
南多猿月

つらさのつらさ

つらさのつらさ

つらさのつらさ

つらさのつらさ



つらさのつらさ

つらさのつらさ

つらさのつらさ

つらさのつらさ

つらさのつらさ

いろは  
な

な

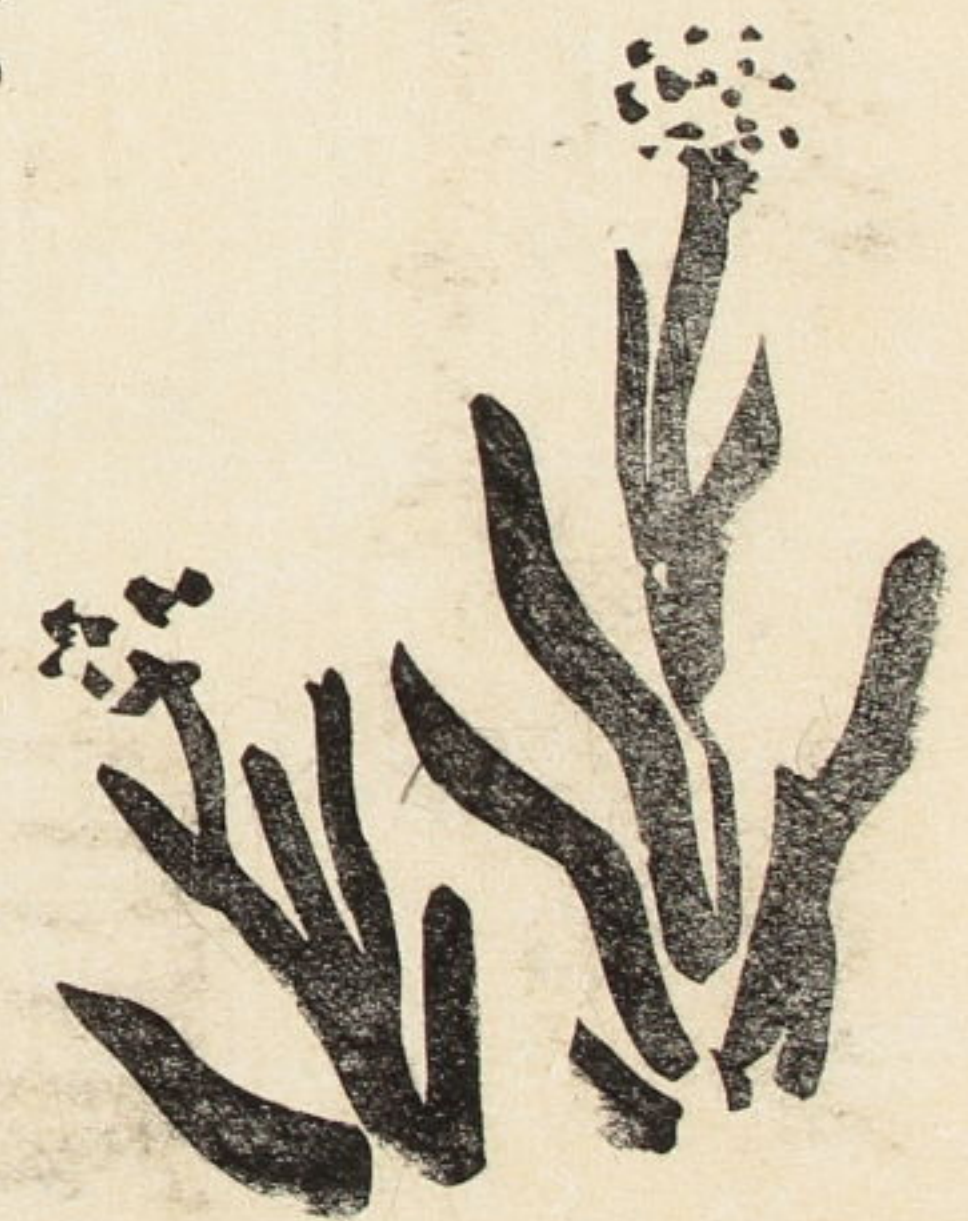
な

武押立

な

な

な



な

拾ふ

石言

極掌

な

梅



金屏風

堂の園

陽光の  
新り針うさ

海谷

な

襦袢

子

とじ、と 糍の

白糸

星躰基落氷



傘提ぐぬきり  
ふれーまふ角

流之ぬきぬき日好 里境

梅子

まき石のひらきとまきり

通きり

有志

山さやや毒とくまの  
とくまの

下野作  
表海角

長之



長生草

後有枝

似之由

草名

草名

草名

通

草名



草名



草名

柳

全連

酒

草名

草名

梅

草名

草名

在

草名

草名



雪の一角  
思ひ  
至池町  
白雲

の  
ほ  
星  
禎鳥

樹の中も  
知  
孝鳥



桃巻金風堂

羽織  
さ  
さ



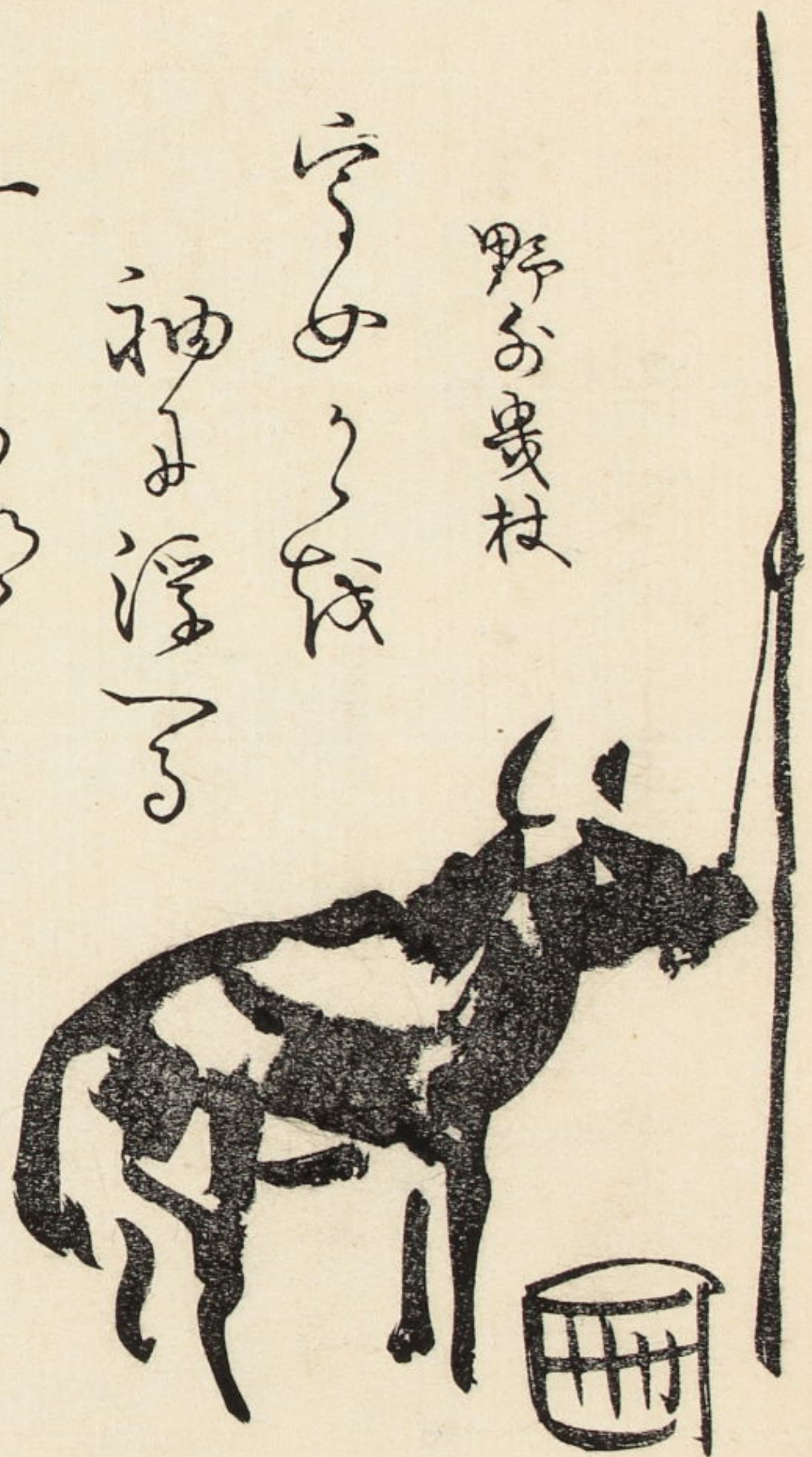
野分杖

定女之辰

神母浮了

一の如

漣亭如泡



青柳中

牛ちけりるる男

又曉舟如流

羊の海も志し

く免

舟一人を如障

常らくふ

松

さし也古今

如蒼





よきよき世に

よきよき世に

よきよき世に

おとこ

人

初めの鳥

しんがいの鳥

金家

昔のころ

長生

あつたまの

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

あつたまの

旭

あつたまの

あつたまの



沙鹿や

のさるゝさるゝ

野如魚

丘月菴

其詞

振神々

寝まゝ

そんぞく

雪接



あゝや

あゝる 難者之様 吟目

武夫之口

風まよふ 向ふ起る

とびや

新しうの 通るや

あをぬるゝ

倉目庵

永夜更孤乃



171

梅のまゝ  
梅のまゝ

ちりとりり 柳糸を四友

刺魚 ちりとりり 牛の持取

梅持舎 千三友

ちりとりりや

梅のまゝ 柳糸を四友 刺魚 ちりとりり 牛の持取



万文のまゝ

柳糸を四友

梅のまゝ

柳糸を四友

梅のまゝ

柳糸を四友

梅のまゝ

琴和

武をきり達

は月堂

免来



流ききり  
雲のきりぎり

無竹水連

南の柳奴

野川の流きり

きりぎり  
春の月  
廣白

いりぎり

きりぎり

玉林

柳

きりぎり

おのきり

おぼ田連

ゆきり

きりぎり  
新 水連

春和

きりぎり

きりぎり  
一水 文草

きりぎり

流のきりぎり

きりぎり  
春水



かよふ女よせへ

笈のちよも

長井町 号舟水運 芳目

もよほしきまゆ

武吉

くまぬら

武吉 玉子

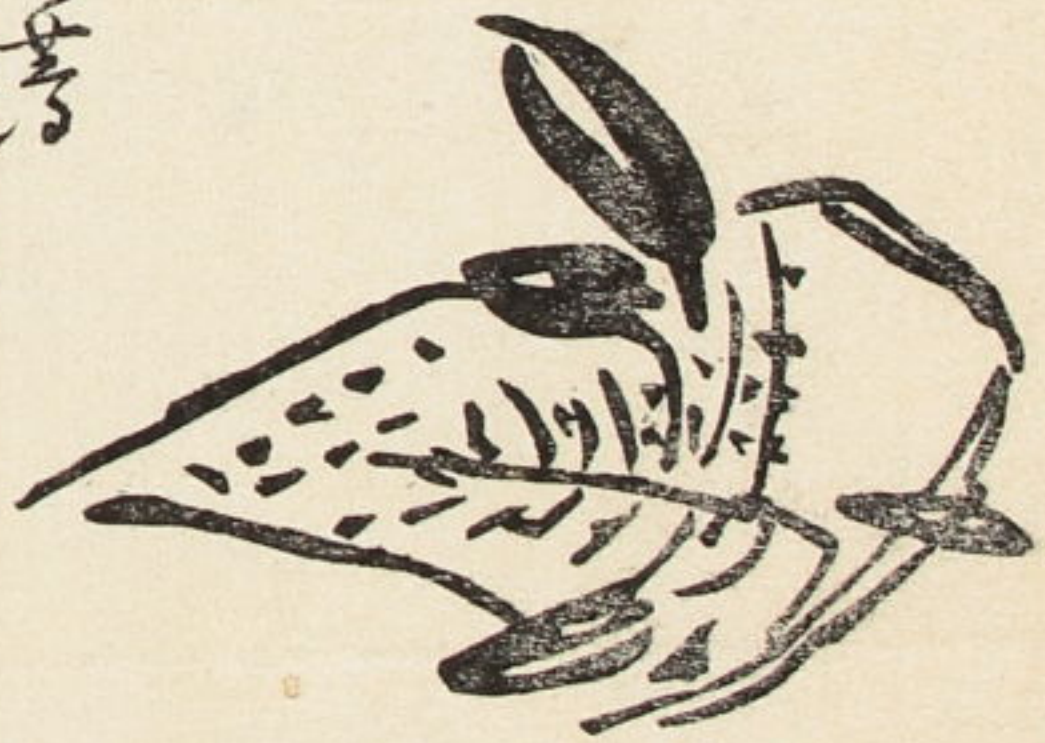
抄

まのり

玉子

漆もくろいぬる

抄



三十七

三吉の酒の流

初り

芳

芳

芳

以や


芳

芳




三十七

あまの  
えり  
あまの  
えり  
あまの  
えり



喜顰  
掌枝



あまの  
えり  
あまの  
えり  
あまの  
えり

枝  
えり  
えり  
えり

奇  
祿



朝きゆらん沖のきよ

そは舟の

行旅の

曙

阿比岐

舟子

阿比岐

千里

舟の

舟子

舟子

舟子

舟子



たらく

舟子

舟子

遠

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子

舟子



舟子

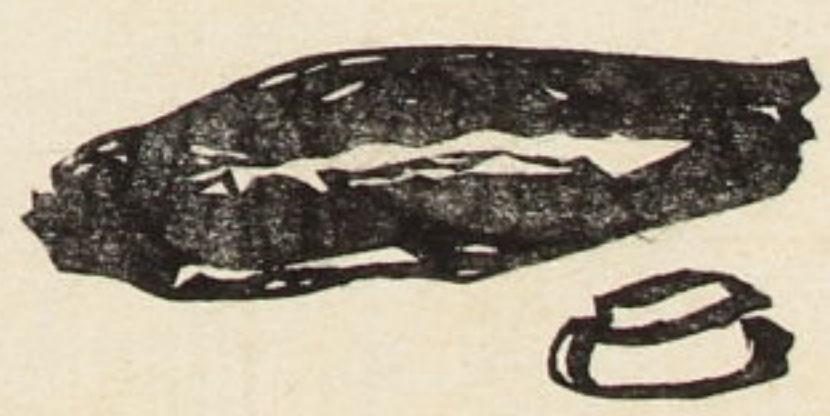
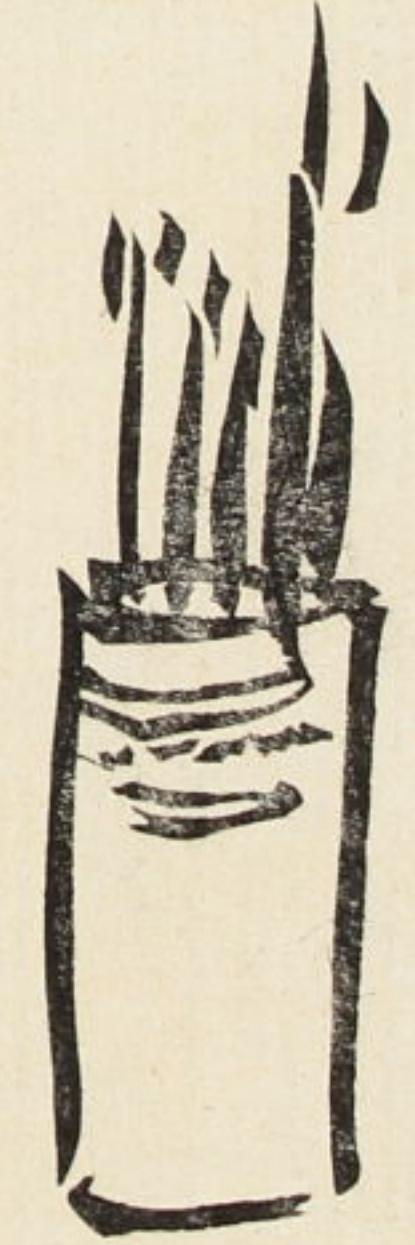


瀧りやあまらぬしらや  
 ちのうすうす  
 家のしんきん  
 全連 ちん年尾 不十  
 其ねる 名なせ

水のままよ  
 志ままいいに  
 寛州  
 きのまま

三十一

うけもの画々  
 富士の山  
 雀のままふ  
 まの雪の  
 ちけぬ  
 沈黙を  
 全連 ちん年尾 不十  
 其ねる 名なせ



午膳  
 本のままふ

全連 ちん年尾 不十  
 其ねる 名なせ

下

我々もや

全連

はなもぬ

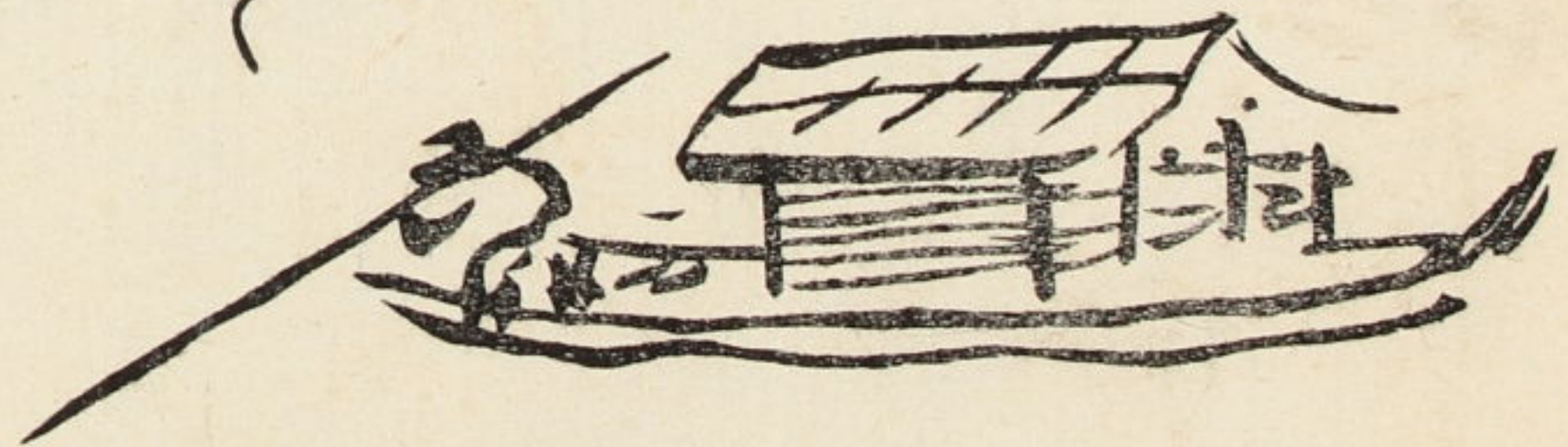
日つら

松舟も梅呂

枝

きのつや あら

布部屋 友見



枝

全連

ちや

ちや軒

のさうさう

秘通

枝

梅舟

折

霧石



全

古の夕の如

う針くおのま痛

雪舟の筆連

免子

たのむ

ゆる紗

まのり

袖の〜 室

鳥  
二  
森  
下

下

帝彦のうたる 旭窓

小野やねの如月 梅本

夢清まをりさたる

夜やさの如月 ち那


雪舟の筆連

はちのすけころ


夜を柳の目堂 桂林



桂林



法  
 の  
 目  
 柳  
 系  
 布  
 尺  
 舞  
 笠  
 吏



破  
 の  
 目  
 の  
 目  
 柳  
 系  
 布  
 尺  
 舞  
 笠  
 吏

柳  
 系  
 布  
 尺  
 舞  
 笠  
 吏



のちまきく 梅と

名のり 枝とらあて

柳ゆき 里文

手く年懐

後き 柳 あき子 冠年

梅 白ふりあく 親族

河くきく

武見田 七流言 柳泉



柳くやまき

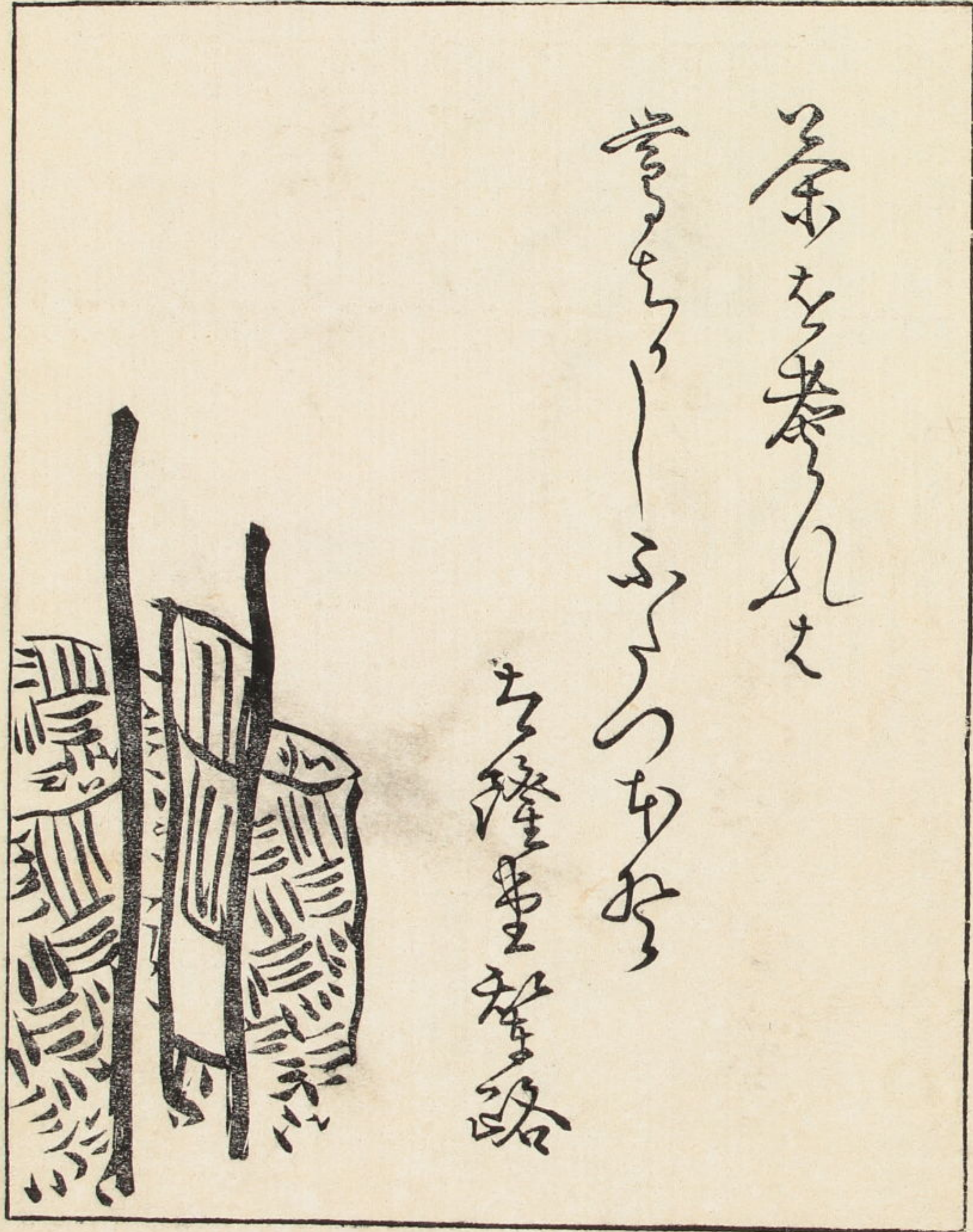
あま田

信ふ入河く 柳松

羽織くき

石壽着 梅助

ちくもあきく ちくもあきく

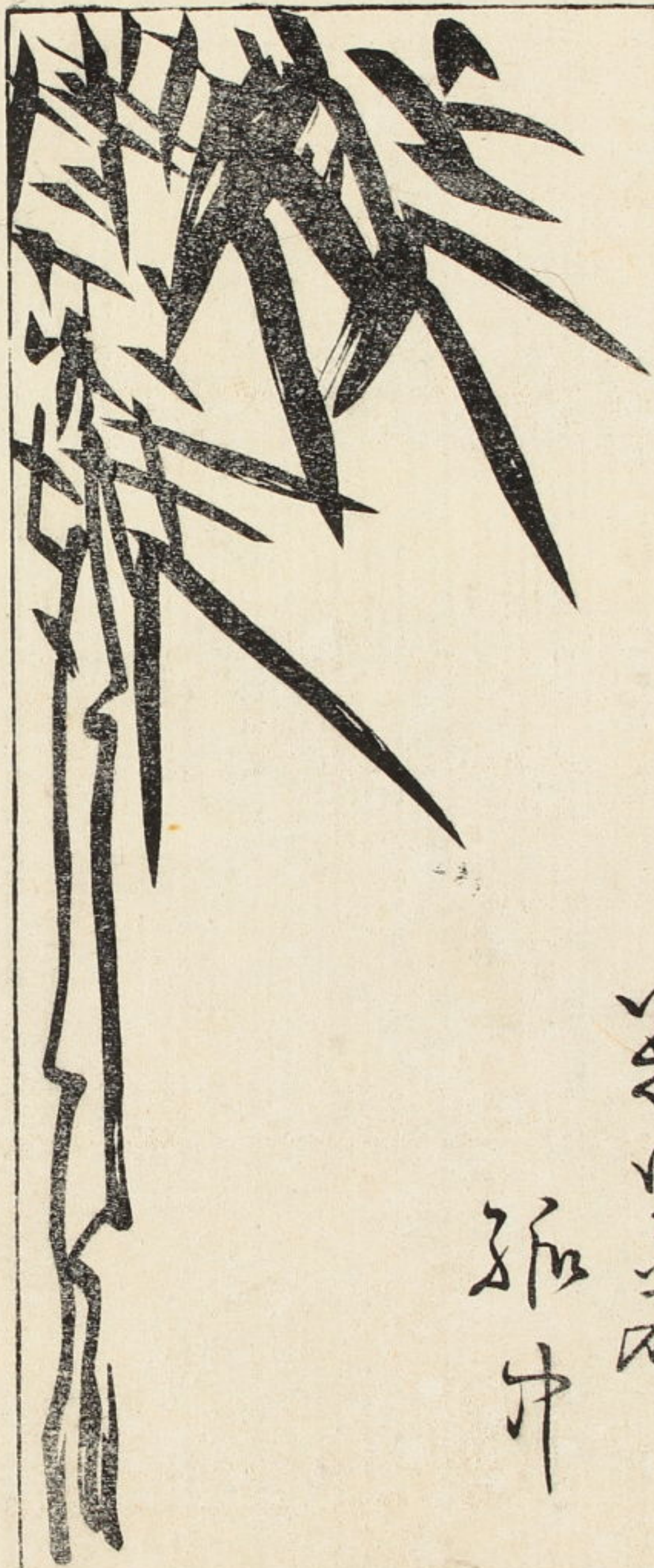


さくらよのさくら

神もみぢ

萬里香

孤中



春まやうはと石と花二より

瓶後

山地路の道と花とて春の目

あねまき花釘屋はりて春の梅

○ 春初る加増花酒や明の春

江表瓶 一坊

てやしや二日三日おたは

母珠の常きくや雪のさり

都ふふ舞まきとも一ふせき

常はれまきと花さすあめのはし

ははやとさくらとて春の山



世は舟や陸うらやうく新 甲平歌 通世

梅さくや音さくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

甲平歌

通世

全横子

山目

書中世

雪谷

全横子

我

元朝や後一たいのきれ亭 月照

梅咲ん布帛を掛るまふも

すはきや通後さる茶の白ひ

さくさくさくさくさくさく

武家伝承

雪人

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

五

月山

新茶のさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

五

け侍より侍をくまへしはる侍雲

吉中家

祝寿

常や何をもくる木のらりきり

そ侍人の小粒よむゆきよのきり

全

毎小

雲むねをくまへしはる侍雲

け侍より侍をくまへしはる侍雲

赤も彩をたけ侍よりきり梅

武仁子

梅より

さきより侍をくまへしはる侍雲

梅より侍をくまへしはる侍雲

全

小女

梅より侍をくまへしはる侍雲

石臼の目乃つみれはる侍雲

全月し幸

梅朝

この目より侍をくまへしはる侍雲

そ侍人の小粒よむゆきよのきり

全

林夕

あやかし侍をくまへしはる侍雲

全

戸を何軒とせしめればは海まで  
あふの桶千加のよほひふ子 全 酒布  
まゆぐや釣の身ふくまふたも  
破山や赤田中流よまらぬ

今よりあてまのまにほく二百の 老翁并 忌解

空のむくまよ梅はり梅あり  
は海のてすはくちまふくまふ  
えくまにふのまにちやあひ新 三毛松 万由

ふまはらぬおはるやソクふみ  
まうしち梅のまはまむまのまら  
かへ里やあまふあまふ知り新 全 佐枝

梅まよ梅のまはまむまのまら  
まらうしち梅ま山新ま片らうそ  
門松まきしちまらう二日月 全 巻渡  
おまやむらうむらうまのま 後存  
文更 文里

あまの白篇あまのまの白篇

梅さくらや梅の家も人あやう

全

清井

春の跡うらやまもよやまの白

海さくらや梅の家も人あやう

えりや梅の上さくら門の山

慧月

朝のこころや梅の一二編

はなはなと山さくらあや梅の山

あや梅さくらあや梅の山

古探

あや梅さくらあや梅の山

甲の屋もあや梅の山

朝のこころや梅の一二編

琴糸女

あや梅さくらあや梅の山

あや梅さくらあや梅の山

あや梅さくらあや梅の山

車光

あや梅さくらあや梅の山

あや梅さくらあや梅の山

あや梅さくらあや梅の山

素十

あや梅さくらあや梅の山

帯河

梅

魁之のまねりしを 仰りしに  
甲府 傳志

梅千草のしをえ 爰も梅のしり

るの梅やさかしくもまき心

野のしりもまきしをいりし事

白梅のまきしをいりし事

すまきしをいりし事

梅のしりもまきしをいりし事

梅のしりもまきしをいりし事

壽富

信州一ま  
戸渡

ち名のつむしよさたる梅のま

くまはし一畑く二畑多 梅の

梅のしりもまきしをいりし事

まの梅のしりもまきしをいりし事

まの梅のしりもまきしをいりし事

まの梅のしりもまきしをいりし事

能登  
慈海

概貞

概谷

たの梅のしりもまきしをいりし事  
梅のしりもまきしをいりし事

武蔵  
梅隆

江津の舟楫おらぐ船長

全上の

、  
板川

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

お茶お茶

、  
我

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

舟長もあつた船長

暮さぬて鳥のつらる 桐の坪

大さきおりのまーし 桐のつら

桐さくやあまむささおのつら

まの桐やゆのさうおのつら

まの桐やまのつら

まの桐やまのつら

まの桐やまのつら

まの桐やまのつら

半

遠接ひび  
砕月

桐腫

半  
抱山安

杯のつらつらく 何のつらつらみ  
まのつらのまを 付のつらつらみ

再訪ふえ日 二つらつらみ

まのつらつらみ

まのつらつらみ

まのつらつらみ

まのつらつらみ

半  
桂翠

半  
山和

八十一

和をきくも後よりかゝるる 全 さるも  
 はくしよも一なる味の好まざる  
 志物〜の房〜や〜の布  
 照る自ら口をきき〜 安毛 全 梅目  
 きよなき〜のう〜のう〜  
 くらしたるよの改申分  
 おもほきぬもの也梅お  
 二またてきぬ〜のまのま  
 おのち〜の〜の〜

英秀

上田の田舎から来たもの 其月  
 夢の夢をたたら〜の神話  
 我の我もち〜のあん  
 梅〜や梅根ハちき山をわ  
 梅のたを〜の〜の〜

言持

解六



あつたはあつたはあつたはあつた

縁西条

浦島屋

あつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

全

あつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつた

あつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつた

あつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつた

あつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつたはあつたはあつたはあつた

あつた

きねの葉うけしる。山を赤  
成花

くふしのきくさうさうや今の法  
、

面をきくさうさうさうさうさう  
、

けのさす井のあもあや梅舞  
、 空彦

よきさやおき桂のあもあ  
、

鬼のさくのもうさめぬのさく  
、

ほろろろおの白さやおの影  
、 下世依評 水

梅さうら梅うはひう井も梅  
、

種子のきくさくさく 紙さうさのほ  
、

えりやひさき、はさくさく、梅の法  
、 三枝

おさうの梅さやさうの梅海  
、

いさくさく、おのさくさくさく  
、

きくさくさく、おのさくさく  
、 見目

さくさく、おのさくさく  
、 尚き

えりのおさくさく、おのさくさく  
、

神代も梅さくさく、おのさくさく  
、

さくさく、おのさくさく  
、

三三

あふやそ金井もあうし  
子山

常々あふし 梅千 初春  
、

煤をけいへる。やえ河をさう  
立柚木  
赤曉

京しやうと紙やと紙の筆始  
、

河をさうとみさうり河合相。  
、

豆鼓の相何とさうとさう  
、

桂木をさうと信りれとさう  
雨晴

おさうとさうとさうとさう  
、

きんも松をさうとさう  
花山

昔やとれくもさうと紙船  
、

漢のさう人のさうの河をさう  
、

あふやとさうとさうとさう  
万翠更  
乙童

着衣のさうとさうとさう  
、

能のさうとさうの袂ひとさう  
、

人せみさうとさうとさうのさ  
出が歌  
玉あ

田畑の果はさうとさうとさう  
、

津波のさうとさうとさう  
、

刀法の花をつめし度れの花を あ〜

上毛立林  
此處の産蓮

月燕

梅のあま枝まう針さるあ〜

河うよし梅もさるり離針

まらありや嘗てあおさるあ〜

全下中表

东里

殿さうや押りの梅さる常盤様

又さうもま枝をさるや梅を

さるさるあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

全上五村

东民

と折半さるさる梅さる一和鳥

木もさるも一振さるやまの向

すはさるや梅さるさるさる

初まやさるさるさる字を後さる

全

紫曜

さる梅さるさるさるさるさる

さるのさるさるさるさるさる

全

鳥表

幹毎さるさるさるさるさる

途おさるさるさるさるさる

さるのさるさるさるさるさる

武酒巻

白文

十六

様のまろ杖よりくしゆきけ川

すしきや鬼丸うちきり

多無よけういけうぬゆえ日

常やきまは隣子はけきり

林太師のまろ房うやまの事

あふのうきりいけうく嘴のま

いんきんま人のせみや梅の事

そふのきりやうのうれ

若のむすきとけあうまの尻

全の事

全の事

丸

上草表

一圓

全の事

若丈

たうのまゆめより和家

いとの枝もはう市母差

くうのまゆめいけうし初表

うまのまゆめはけきののしな細

すまのまゆめはけきののしな細

えのの枝もはう市母差

つまのまゆめはけきののしな細

よまのまゆめはけきののしな細

ゆまのまゆめはけきののしな細

全の事

全の事

丸

上草表

一圓

全の事

若丈

八十七九

全

新表

秋の夕陽もけしきをなす。  
ゆるゆると暮らひまゝの世に

兩節

初鶯よ夏の夕暮の光を  
臨人も持てしむるまの  
牛小屋の門もよめぬ日  
秋をちと抱く膝こゝろ  
大雲湯之登銀ハ初まよゆりく章句  
小生路のまゝてけしき

梅栗

馬一

山峯

古きや雪も手傳ふ如日影

葉煙

雲も初まらやなまてまの鐘

東の海ももるる朝の雲

葦石

雲も初まらやなまてまの鐘

浦も初まらやなまてまの鐘

蕙山

梅の影も初まらやなまてまの鐘

且奥

もるる影も初まらやなまてまの鐘  
あゝほくあゝもるる影も初まらやなまてまの鐘

松崎

ふいさうもて心なごころの庵  
扱たまの跡や笑の春あきし

二扱庵

兩節

正月平々を飾りて年四り春  
かけし乃は燈火まあり猶目  
よ以年をなごころ春う初も新  
春の初や梅の白おまよ撃  
扱あよ旅する人うけさの春  
春初をいさふ如し春の月

紫峰庵

白富

吳行軒

たまの初ものや袖の春初葉

春初葉

柳や春しすめお初葉の

春の初も春をいさふ春の春

河津屋

三日月や初より初も春の初

春の初も春の初も春の初

松芳軒

春の初も春の初も春の初

春の初も春の初も春の初

麻生庵

春の初も春の初も春の初

春初

他邦補助連

浮くく出のくやきき教

松浦

まきまのくくまのりおまのりく

梶市

袂くくおのくくくくくくく

月桂

野々島に袂くくくくくく

編竹

はの子の鼻くくくくくく

坊長

あくくくくくくくくく

晴河

くくくくくくくくくく

是陽

まきのおやほくくくくく

月桂

西日のま中くくくくく

密堂

梅のくくくくくくく

秋陽

くくくくくくくくく

ぬ扇

松あくくくくくくく

倚松

物くくくくくくくく

ぬ山

梅くくくくくくく

凡人

河ぬくくくくくく

糸聖

菊くくくくくくく

歩月

まきくくくくくく

深長

くくくくくくく

樞我



塔のおもむき千せしむるよるの芽

吟目

物もやうも母もくすみくそ

知本

あつむる自やむまの枝一本

琴松

たうらうくらむきまぬまの風

松社

ぬく時午一足りせし 濼

甫山

まきまやりにくもほもほく

丈雨

まき柳の暖くける小窓うか

文石

木の万々々まのむもや電

孤中

木もほくそふれいふほくまの白

桃江

物うのすくやうす也馬の鼻

多登

あふるやふれをくも雲粒

翠路

雲の啼新きすや元ほく方

半法

春興

雲乃大樹くつらる天氣が

對山

まゆもや雲をゆきくハ新の下

夷門

夏もあつおほくまきく物

鐵高

一途をきくに伸くあうま  
梅さくや梅よ春春の柳唐  
音あやうきあやうきあやうき  
年あやうき川のあやうきあやうき  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
いさよの編笠うる常か  
あつあつあつあつあつあつあつ

吐 糸  
草 石  
水 元  
玉 糸  
粗 文  
そ 由  
福 童  
聖 路

鶯の腫ほよ子のあ少ねが  
あつあつあつあつあつあつあつ  
梅園をとととととととととととと  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ

素々  
翠羽  
暮峰  
念山  
杏雨  
錦江  
暮阜  
冬史  
波翠

はーのその海をこらーのー一極  
川航の聲をこらーのやまのま  
音のこらーのこらーの産けを  
夕日や風を極をこら伸を

國甫  
吉久隆  
半分  
葦河

葦河のこらまきわく柳が  
かーのつるも思をこら柳の影  
中こらこらぬハ等こらーのこら

風谷  
時鳥  
杉雨

第百

筆もまのこらまきわく柳が  
年傍くあや少柳をこら  
橋よハ名人もはうらーの極  
鶯の口もおまぬはまを  
隣のもおまきりーはれを  
まののちもまぬはまを

橋栗  
馬一  
山峰  
蘭溪  
葦石  
意山

忘らうとすこらまきわく柳が

松晴

泥う軒多幸多うせし我は此佛

大尾

軍風

此年も素海若一幸の浦也

夫雪

陸よりとるまよかきや幸の聲

東之

浦人のこぼれまよきよとくは

白南

年らぬるまよきよきしり

輪江

おもしうや海幸の申も松こころ

空目

たごの時はやまよきけしれ

知明

ふれう戦うるの海幸新田山

峨文



124

*[Handwritten signature]*

